

府中市福祉計画策定のための調査 障害福祉分野 障害の種類別のクロス集計結果（抜粋）（案）

1 分析目的

- ・ アンケート調査の全問・質問間クロス集計を通して、障害のある人、育ちや発達に気になることがある人、難病のある人の各層におけるニーズを詳細に分析し、次期計画に向けた課題整理の参考にする。

2 分析方法

- ・ 分析方法として、次のような方法で分析を行う。全体集計は第4回協議会で示したものである。

(1) 全体集計

- ・ 調査ごとに、全体集計を出し、全体としての傾向を把握する。

(2) 基本属性での全問クロス集計

- ・ 基本属性を集計軸とした全問クロス集計を行い、基本的な分析を行う。
- ・ 全問クロス集計は、性別、年代別、障害程度別等の集計軸に基づき実施する。

(3) 質問間クロス集計

- ・ 問題意識に沿って、就労の有無、世帯年収、仕事の形態、単独支援ができるか等、課題となる切り口を設け、必要な質問との間でのクロス集計を行い、分析する。

(4) 自由回答の整理

- ・ 数量的な分析だけでは把握しきれない対象者の自由意見について、項目を分類、整理し、分析を行う。これは第6回協議会でお示しする予定である。

3 分析結果の反映方法

- ・ 分析結果は、課題として整理し、次期事業計画の内容に反映させる。

4 障害等のある人への調査（調査1）

- ・「障害の種類」は、F5（所持する手帳または受給者証の種類）の記載をもとに、以下のように分類して集計した。
- ・いずれの手帳にも○をつけなかった方は障害の種類別の集計結果には含まれないが、全体の集計結果に含まれている。
- ・母数が1桁台の集計結果については、言及しないことがある。

身体障害者：身体障害者手帳のみ○をつけた方

身体障害者手帳と特定医療費受給者証に○をつけた方

知的障害者：愛の手帳に○をつけた方（他の手帳や受給者証を所持している方を含む）

精神障害者：精神障害者保健福祉手帳のみ○をつけた方

自立支援医療受給者証所持者のみ○をつけた方

精神障害者保健福祉手帳と自立支援医療受給者証に○をつけた方

難病患者：特定医療費受給者証のみ○をつけた方

		(人)	(%)
全体		1,413	100.0
障害種別	身体障害者	645	45.6
	知的障害者	180	12.7
	精神障害者	319	22.6
	難病患者	211	14.9
	無回答	58	4.1

年齢別の内訳

		(上段：人、下段：%)				
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	無回答	
全体		1,413	313	571	507	22
		100.0	22.2	40.4	35.9	1.6
障害種別	身体障害者	645	22	212	407	4
		100.0	3.4	32.9	63.1	0.6
	知的障害者	180	128	47	5	0
		100.0	71.1	26.1	2.8	0.0
	精神障害者	319	115	186	17	1
	100.0	36.1	58.3	5.3	0.3	
難病患者	211	47	117	47	0	
	100.0	22.3	55.5	22.3	0.0	

(1) 障害福祉サービスの利用

- ・現在よく利用されているサービスは、身体障害者では「補装具費の支給・日常生活用具費」、知的障害者は「日中活動系サービス」、精神障害者と難病患者では「相談支援」である。
- ・サービスの「満足度」は7割台である。サービスに不満な理由は、「希望する曜日・時間に使えない」、「サービス支給量が少ない」、「緊急時に利用できない」、「希望通りの内容でサービスが使えない」などである。
- ・今後利用したいサービスは、身体障害者、精神障害者、難病患者は「相談支援」、知的障害者は「居住系」サービスが多い。

◎福祉サービスの利用状況・利用意向（問6）

【全体】

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせた<利用者層>は、『相談支援』（17.3%）が最も多く、『日中活動系サービス』（11.2%）、『訪問系サービス』（10.5%）が続いている。
- ・「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後、利用したい」をあわせた<未利用者層>は、『相談支援』（28.2%）が最も多く、『移動支援』（19.0%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（14.1%）、<未利用者層>では『相談支援』（29.6%）が最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『日中活動系サービス』（38.9%）、<未利用者層>では『居住系サービス』（38.3%）が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『相談支援』（23.2%）、<未利用者層>では『相談支援』（32.9%）が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『相談支援』（5.7%）が、<未利用者層>では『相談支援』（22.7%）が最も多い。

図表1 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（全体、障害の種類別）

(1) 訪問系サービス

		(N)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体		(N=1,413)	8.6	2.0	0.1	0.4	15.8	20.2	33.4	19.5	10.5	16.3
障害種別	身体障害者	(n=645)	9.1	1.9	0.0	0.5	19.4	16.1	30.7	22.3	11.0	19.8
	知的障害者	(n=180)	10.6	2.2	0.6	0.6	14.4	18.9	27.8	25.0	12.8	15.6
	精神障害者	(n=319)	10.0	3.4	0.3	0.6	10.7	30.1	33.5	11.3	13.5	11.6
	難病患者	(n=211)	2.4	0.5	0.0	0.0	12.8	21.3	46.0	17.1	2.8	12.8

(2) 日中活動系サービス

		(N)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体		(N=1,413)	8.8	2.4	0.6	0.5	13.0	21.2	33.7	19.8	11.2	14.1
障害種別	身体障害者	(n=645)	4.8	1.9	0.2	0.3	16.1	18.4	33.8	24.5	6.7	16.6
	知的障害者	(n=180)	31.1	7.8	4.4	1.1	8.9	15.0	13.9	17.8	38.9	14.4
	精神障害者	(n=319)	9.1	1.9	0.0	0.9	11.3	31.3	33.2	12.2	11.0	12.2
	難病患者	(n=211)	2.4	0.9	0.0	0.0	9.5	21.3	48.8	17.1	3.3	9.5

(3) 居住系サービス

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	3.3	0.8	1.4	0.6	15.8	24.0	33.6	20.5	4.1	17.8
障害種別	身体障害者	(n=645)	2.2	0.5	0.2	0.2	16.3	21.7	33.8	25.3	2.6	16.6
	知的障害者	(n=180)	8.3	3.3	8.9	1.1	28.3	12.8	17.8	19.4	11.7	38.3
	精神障害者	(n=319)	3.4	0.9	0.9	1.6	11.9	35.4	32.0	13.8	4.4	14.4
	難病患者	(n=211)	1.4	0.0	0.0	0.5	10.0	24.6	47.9	15.6	1.4	10.4

(4) 短期入所サービス

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	3.3	1.8	0.6	0.7	16.6	23.4	33.5	20.2	5.0	17.8
障害種別	身体障害者	(n=645)	2.9	0.8	0.0	0.3	20.9	18.9	31.6	24.5	3.7	21.2
	知的障害者	(n=180)	8.3	9.4	4.4	1.7	20.6	13.3	20.6	21.7	17.8	26.7
	精神障害者	(n=319)	1.9	0.6	0.0	1.3	9.1	38.2	35.4	13.5	2.5	10.3
	難病患者	(n=211)	1.9	0.5	0.0	0.5	11.8	22.7	47.4	15.2	2.4	12.3

(5) 相談支援

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	15.1	2.2	0.2	1.0	27.0	11.3	25.5	17.6	17.3	28.2
障害種別	身体障害者	(n=645)	8.7	1.2	0.0	0.5	29.1	12.9	25.1	22.5	9.9	29.6
	知的障害者	(n=180)	42.2	7.2	0.6	1.1	20.0	3.3	10.0	15.6	49.4	21.7
	精神障害者	(n=319)	20.7	2.5	0.6	2.5	29.8	8.5	25.7	9.7	23.2	32.9
	難病患者	(n=211)	4.7	0.9	0.0	0.0	22.7	17.1	39.8	14.7	5.7	22.7

(6) 移動支援

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	3.0	2.1	1.3	0.6	17.1	22.2	33.7	20.0	5.2	19.0
障害種別	身体障害者	(n=645)	2.6	1.2	0.5	0.5	20.2	17.7	32.9	24.5	3.9	21.1
	知的障害者	(n=180)	10.0	10.6	8.3	1.1	19.4	14.4	18.3	17.8	20.6	28.9
	精神障害者	(n=319)	1.3	0.6	0.0	1.3	11.9	37.0	34.2	13.8	1.9	13.2
	難病患者	(n=211)	0.9	0.5	0.0	0.0	12.8	21.3	48.3	16.1	1.4	12.8

(7) 意思疎通支援

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	0.7	0.3	0.1	0.4	6.6	27.7	41.1	23.1	1.0	7.1
障害種別	身体障害者	(n=645)	0.9	0.5	0.0	0.5	8.5	21.7	40.9	27.0	1.4	9.0
	知的障害者	(n=180)	1.1	0.0	0.6	1.1	3.9	27.2	36.7	29.4	1.1	5.6
	精神障害者	(n=319)	0.6	0.3	0.0	0.3	3.1	44.8	36.4	14.4	0.9	3.4
	難病患者	(n=211)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	22.3	52.6	18.0	0.0	7.1

(8) 補装具・日常生活用具費の支給

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	6.9	2.8	0.1	0.3	16.8	20.7	32.5	19.9	9.8	17.2
障害種別	身体障害者	(n=645)	10.1	4.0	0.3	0.5	23.6	12.9	26.7	22.0	14.1	24.3
	知的障害者	(n=180)	10.0	6.1	0.0	0.0	8.3	20.0	28.9	26.7	16.1	8.3
	精神障害者	(n=319)	0.6	0.0	0.0	0.3	9.1	38.6	37.0	14.4	0.6	9.4
	難病患者	(n=211)	2.4	0.9	0.0	0.0	12.8	20.4	47.4	16.1	3.3	12.8

【障害の種類×年代】

(短期入所サービス)

- ・身体障害者は、65歳以上で「今後、利用したい」が全体より6ポイント以上高い。
- ・知的障害者は、18～39歳で「利用しているが希望通りではない」が10%を超えて比較的高い。
- ・精神障害者は、40～64歳で「今後、利用したい」が全体より11%以上で他の年代より高い。
- ・難病患者は、18～39歳で「今後、利用したい」が約15%と、比較的多くなっている。

(相談支援)

- ・身体障害者は、18～39歳で「今後、利用したい」が4割と多くなっている。
- ・知的障害者は、いずれの年代でも「希望通り利用できている」が3割以上と多くなっている。
- ・精神障害者は、18～39歳で「希望通り利用できている」がほぼ3割となっている。「今後利用したい」も、18～39歳で全体より6ポイント高く、現在の利用状況、今後の利用意向ともに高い。
- ・難病患者は、いずれの年代でも「希望通り利用できている」が1割未満である一方、「今後、利用したい」が2割以上となっている。

図表2 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（全体、障害の種類×年代別）

(4) 短期入所サービス

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	3.3	1.8	0.6	0.7	16.6	23.4	33.5	20.2	5.0	17.8
障害種別・ 年代別	身体障害者	18～39歳 (n=22)	0.0	0.0	0.0	4.5	22.7	27.3	40.9	4.5	0.0	27.3
		40～64歳 (n=212)	1.4	0.5	0.0	0.5	16.5	23.1	44.3	13.7	1.9	17.0
		65歳以上 (n=407)	3.9	1.0	0.0	0.0	23.3	16.5	24.6	30.7	4.9	23.3
	知的障害者	18～39歳 (n=128)	9.4	10.9	6.3	2.3	18.0	12.5	22.7	18.0	20.3	26.6
		40～64歳 (n=47)	6.4	6.4	0.0	0.0	27.7	14.9	12.8	31.9	12.8	27.7
		65歳以上 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0
	精神障害者	18～39歳 (n=115)	0.9	0.9	0.0	0.9	6.1	41.7	40.0	9.6	1.7	7.0
		40～64歳 (n=186)	2.2	0.5	0.0	1.6	11.8	36.0	33.3	14.5	2.7	13.4
		65歳以上 (n=17)	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	41.2	23.5	29.4	5.9	0.0
	難病患者	18～39歳 (n=47)	2.1	2.1	0.0	0.0	14.9	25.5	53.2	2.1	4.3	14.9
		40～64歳 (n=117)	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	25.6	46.2	17.1	0.0	11.1
		65歳以上 (n=47)	6.4	0.0	0.0	2.1	10.6	12.8	44.7	23.4	6.4	12.8

(5) 相談支援

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	15.1	2.2	0.2	1.0	27.0	11.3	25.5	17.6	17.3	28.2
障害種別・ 年代別	身体障害者	18～39歳 (n=22)	0.0	0.0	0.0	4.5	40.9	13.6	36.4	4.5	0.0	45.5
		40～64歳 (n=212)	9.9	1.4	0.0	0.5	29.7	11.3	35.8	11.3	11.3	30.2
		65歳以上 (n=407)	8.6	1.2	0.0	0.2	28.5	13.8	19.2	28.5	9.8	28.7
	知的障害者	18～39歳 (n=128)	46.1	9.4	0.0	0.8	18.8	3.1	10.9	10.9	55.5	19.5
		40～64歳 (n=47)	31.9	0.0	2.1	2.1	25.5	2.1	6.4	29.8	31.9	29.8
		65歳以上 (n=5)	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0
	精神障害者	18～39歳 (n=115)	28.7	1.7	0.0	2.6	33.0	3.5	24.3	6.1	30.4	35.7
		40～64歳 (n=186)	16.7	2.7	1.1	2.7	29.0	10.2	26.9	10.8	19.4	32.8
		65歳以上 (n=17)	11.8	5.9	0.0	0.0	17.6	23.5	17.6	23.5	17.6	17.6
	難病患者	18～39歳 (n=47)	6.4	0.0	0.0	0.0	27.7	21.3	42.6	2.1	6.4	27.7
		40～64歳 (n=117)	2.6	0.9	0.0	0.0	20.5	18.8	41.0	16.2	3.4	20.5
		65歳以上 (n=47)	8.5	2.1	0.0	0.0	23.4	8.5	34.0	23.4	10.6	23.4

◎障害福祉サービスの満足度（問6-1）

【全体】

- ・「満足」（34.8%）と「やや満足」（37.1%）をあわせた＜満足層＞は、71.9%である。
- ・「やや不満」（15.4%）と「不満」（3.7%）をあわせた＜不満層＞は19.2%である。

【障害の種類別】

- ・精神障害者の＜満足層＞（81.6％）は、全体（71.9％）より10ポイント近く高い。

図表3 障害福祉サービスの満足度（全体、障害の種類別）
 ＜障害福祉サービスを利用している人＞

		(n)	満足層		不満足層		無回答	満足層 (再掲)	不満足層 (再掲)
			満足	やや満足	やや不満	不満			
全体		(n=402)	34.8	37.1	15.4	3.7	9.0	71.9	19.2
障害種別	身体障害者	(n=155)	32.9	37.4	13.5	3.2	12.9	70.3	16.8
	知的障害者	(n=115)	24.3	40.9	22.6	4.3	7.8	65.2	27.0
	精神障害者	(n=103)	45.6	35.9	10.7	2.9	4.9	81.6	13.6
	難病患者	(n=16)	50.0	18.8	12.5	12.5	6.3	68.8	25.0

◎サービスの不満な理由（問6-2：複数回答）

【全体】

- ・＜不満層＞にその理由をたずねたところ、「希望する曜日・時間に使えない」（36.4％）が最も多く、「サービスの支給量が少ない」（33.8％）、「緊急時に利用できない」（32.5％）、「希望通りの内容でサービスが使えない」（31.2％）、が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「サービス支給量少ない」（33.8％）が最も多い。
- ・知的障害者、精神障害者は、「希望する曜日・時間に使えない」（知的54.8％、精神42.9％）が最も多い。
- ・難病患者は回答者数が4人であるが、「サービス支給量少ない」が半数になっている。

図表4 障害福祉サービスの不満な理由（全体、障害の種類別：複数回答）
 ＜やや不満、不満と回答した人＞

		(n)	サービス 支給量が 少ない	サービス の質が良 くない	希望通り の内容で サービス が使えな い	希望する 曜日・時 間帯に使 えない	希望する 事業者や 施設が見 つからな い	緊急時に 利用でき ない	費用負担 が大きい	利用方法 がわかり にくい	サービス 内容がわ かりにく い	サービス の情報が 入手しに くい	その他	無回答
全体		(n=77)	33.8	24.7	31.2	36.4	19.5	32.5	19.5	15.6	18.2	24.7	20.8	2.6
障害種別	身体障害者	(n=26)	46.2	19.2	23.1	19.2	11.5	30.8	30.8	7.7	11.5	26.9	34.6	0.0
	知的障害者	(n=31)	22.6	25.8	41.9	54.8	32.3	35.5	9.7	16.1	12.9	29.0	6.5	3.2
	精神障害者	(n=14)	28.6	28.6	35.7	42.9	14.3	35.7	14.3	21.4	35.7	14.3	21.4	7.1
	難病患者	(n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0

(2) 就労

- ・身体障害者と精神障害者は「仕事はしていない」が最も多いが、それ以外では「一般就労」が多い。
- ・知的障害者は「障害者施設に通所で働いている」、難病患者は「一般就労」が多い。
- ・仕事をするうえでの不安は全体で「収入が少ない」が多いが、精神障害者は「通勤がたいへん」、「人間関係がうまくいかない」、「相談できる人がいない」、「雇用形態が不安定」なども多い。
- ・仕事をしていない理由は、身体障害者は「高齢のため」、知的障害者は「重い障害のため」、精神障害者は「病気のため（入院を含む）」、難病患者は「病気のため（入院を含む）」、「高齢のため」などとなっている。
- ・障害等のある人が働くために希望することは、身体障害者は「自分の家の近くに働く場所があること」、知的障害者は「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」が多くなっている。

◎現在の仕事（問11）

【全体】

- ・「仕事はしていない（48.9%）」と「無回答（3.3%）」を除くと、＜仕事をしている人＞は47.8%である。

【障害の種類】

- ・身体障害者は、「仕事はしていない」（64.3%）が最も多いが、それ以外では「一般就労」（13.3%）が続いている。
- ・知的障害者は、「障害者施設に通所で働いている」（38.9%）が最も多い。
- ・精神障害者は、「仕事はしていない」（42.6%）が最も多いが、それ以外では「一般就労」（18.2%）、「パート・アルバイト・日雇い」（14.4%）、「障害者施設に通所で働いている（11.0%）」が続いている。
- ・難病患者は、「一般就労」（34.1%）が最も多く、次いで「仕事はしていない」（31.8%）が続いている。

図表5 現在の仕事（全体、障害の種類別、障害の種類×年代別）

			仕事をしている人							仕事はしていない	無回答	仕事をしている人 (再掲)	
			一般就労	自営業者	家業手伝い	パート・アルバイト・日雇い	在宅ワーク	障害者施設に通所で働いている	その他				
全体		(N=1,413)	18.5	4.2	0.7	10.6	1.7	8.3	3.8	48.9	3.3	47.8	
障害種別	身体障害者	(n=645)	13.3	5.9	0.9	7.3	1.6	0.9	2.8	64.3	2.9	32.7	
	知的障害者	(n=180)	22.2	0.0	0.0	8.3	0.6	38.9	6.1	18.9	5.0	76.1	
	精神障害者	(N=319)	18.2	2.5	0.3	14.4	2.2	11.0	6.3	42.6	2.5	54.9	
	難病患者	(N=211)	34.1	5.7	1.4	19.0	2.4	1.9	1.9	31.8	1.9	66.4	
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳	(n=22)	50.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	4.5	31.8	4.5	63.6
		40～64歳	(n=212)	30.2	7.1	0.9	9.9	3.8	2.4	2.4	41.5	1.9	56.6
		65歳以上	(n=407)	2.7	5.7	1.0	5.9	0.5	0.2	2.7	77.9	3.4	18.7
	知的障害者	18～39歳	(n=128)	25.0	0.0	0.0	7.0	0.8	39.1	7.0	18.0	3.1	78.9
		40～64歳	(n=47)	17.0	0.0	0.0	10.6	0.0	38.3	4.3	21.3	8.5	70.2
		65歳以上	(n=5)	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	60.0
	精神障害者	18～39歳	(n=115)	19.1	4.3	0.0	19.1	2.6	9.6	7.8	35.7	1.7	62.6
		40～64歳	(n=186)	19.4	1.6	0.5	12.4	2.2	12.4	5.9	43.0	2.7	54.3
		65歳以上	(n=17)	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	82.4	5.9	11.8
	難病患者	18～39歳	(n=47)	53.2	0.0	2.1	19.1	0.0	2.1	4.3	17.0	2.1	80.9
		40～64歳	(n=117)	39.3	6.8	0.9	23.9	4.3	2.6	1.7	19.7	0.9	79.5
		65歳以上	(n=47)	2.1	8.5	2.1	6.4	0.0	0.0	0.0	76.6	4.3	19.1

◎仕事をするうえでの不安（問11-1：複数回答）

【全体】

- ・「収入が少ない」（43.7%）が最も多く、「通勤がたいへん」（18.5%）、「仕事がつい」（17.2%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・いずれの障害種別でも「収入が少ない」（身体31.8%、知的50.4%、精神58.9%、難病36.4%）が最も多い。
- ・知的障害者は、「収入が少ない」の次に「人間関係がうまくいかない」（18.2%）が続いている。
- ・精神障害者は、「収入が少ない」以外にも「通勤がたいへん」（28.6%）、「人間関係がうまくいかない」（25.1%）、「仕事がつい」（20.6%）、「雇用形態が不安定」（20.0%）が2割以上となっている。「相談できる人がいない」（18.3%）も全体より6ポイント以上高い。
- ・難病患者は、「収入が少ない」の次に「仕事がつい」（23.6%）が2割を超えている。

図表6 仕事上の不安（全体、障害の種類別：複数回答）

<仕事をしている人>

			収入が少 ない	仕事が難 しい	仕事がき つい	勤務日 数・時間 の調整が できない	人間関係 がうまく いかない	トイレな ど設備が 十分でな い	通勤がた いへん	雇用形態 が不安定	相談でき る人がい ない	その他	特にな い	無回答
全体	(n=675)		43.7	8.0	17.2	7.4	14.1	3.6	18.5	11.4	11.6	9.0	28.9	3.4
障害種別														
	身体障害者 (n=211)		31.8	5.7	15.2	4.3	6.6	4.7	15.2	9.0	9.5	9.5	37.0	4.7
	知的障害者 (n=137)		50.4	4.4	10.9	5.8	18.2	2.2	11.7	4.4	7.3	5.8	27.7	5.1
	精神障害者 (n=175)		58.9	14.9	20.6	11.4	25.1	2.3	28.6	20.0	18.3	14.3	14.9	1.1
	難病患者 (n=140)		36.4	6.4	23.6	9.3	7.9	5.0	17.9	12.1	10.7	5.7	33.6	2.9

(%)

◎仕事をしていない理由（問11-2：複数回答）

【全体】

- ・「高齢のため」（38.8%）が最も多く、「病気のため（入院を含む）」（28.4%）、「重い障害のため」（17.9%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「高齢のため」（52.3%）、知的障害者は「重い障害のため」（55.9%）、精神障害者は「病気のため（入院を含む）」（44.9%）が最も多い。難病患者は「病気のため（入院を含む）」（43.3%）が最も多く、「高齢のため」（32.8%）が続いている。

図表7 仕事をしていない理由（全体、障害の種類別：複数回答）

<仕事をしていない人>

			就学中・ 就学前の ため	高齢のた め	重い障害 のため	病気のため (入院を 含む)	希望する 職種が得 られない ため	通勤が難 しいため	就労に向 けて準備 中のため	働く必要 がないた め	解雇され たため	その他	特に理由 はない	無回答
全体	(n=691)		0.9	38.8	17.9	28.4	4.2	7.8	7.1	8.1	1.4	13.6	6.2	4.8
障害種別														
	身体障害者 (n=415)		0.2	52.3	18.1	23.4	3.9	6.7	2.4	9.6	0.7	10.1	7.2	5.1
	知的障害者 (n=34)		5.9	5.9	55.9	0.0	5.9	11.8	5.9	0.0	0.0	20.6	0.0	5.9
	精神障害者 (n=136)		1.5	5.9	18.4	44.9	5.1	11.8	18.4	2.2	4.4	21.3	4.4	5.1
	難病患者 (n=67)		1.5	32.8	3.0	43.3	4.5	7.5	14.9	10.4	1.5	13.4	6.0	3.0

(%)

◎障害のある人が働くために希望すること（問13：複数回答）

【全体】

- ・「自分の家の近くに働く場所があること」（38.9%）が最も多く、「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」（37.5%）、「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」（23.7%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者は、「自分の家の近くに働く場所があること」（身体28.1%、知的45.6%）が、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」（精神56.7%、難病55.5%）が最も多い。

図表8 障害のある人が働くために希望すること（全体、障害の種類別：複数回答）

		自分の家の近くに働く場所があること	必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること	障害等のある人に適した仕事が開拓されること	就労の場を紹介したり、相談できる場所が整っていること	企業に就職するための訓練を受けたり、求職活動を手伝ってもらうこと	職業訓練所など、技能・知識の習得を援助する施設が充実していること	民間企業がもっと積極的に雇用すること	自営業を希望する人への支援を充実すること	事業主や職場の人たちが、障害等のある人の雇用について充分理解していること	事業主や職場の人たちが障害特性について理解していること	職場の施設や設備が障害等のある人にも利用できるように配慮されていること	介助者と一緒に働けること	(%)
	全体 (N=1,413)	38.9	37.5	23.7	18.5	10.6	8.5	12.6	5.4	22.9	22.4	12.7	3.0	
障害種別	身体障害者 (n=645)	28.1	26.8	16.9	10.9	5.9	5.1	7.8	4.0	15.2	14.7	10.5	2.3	
	知的障害者 (n=180)	45.6	27.2	42.2	21.7	11.1	6.7	12.8	1.1	32.8	32.2	18.3	7.2	
	精神障害者 (n=319)	53.3	56.7	39.5	34.2	23.2	19.4	25.7	11.0	41.4	42.9	20.4	2.8	
	難病患者 (n=211)	49.8	55.5	10.4	19.0	8.5	5.7	10.0	5.2	14.7	11.4	6.2	1.9	

		合計	同じような障害等のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	賃金格差がないこと	その他	分からない	無回答
	全体 (N=1,413)	8.2	21.0	4.3	20.5	17.1	
障害種別	身体障害者 (n=645)	3.7	13.2	4.7	27.8	22.9	
	知的障害者 (n=180)	21.7	26.1	2.2	13.3	16.7	
	精神障害者 (n=319)	13.8	39.5	6.0	12.2	7.5	
	難病患者 (n=211)	3.3	16.1	2.4	13.7	10.4	

(3) 相談・権利擁護

- ・悩みや困りごとを相談できる人が「いる」人が8割以上であるが、「いない」人も1割程度いる。
- ・悩みや困りごとの相談先は「家族・親族」が最も多いが、身体障害者と難病患者は「友人・知人」、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所」、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員など」も多い。
- ・成年後見制度を利用する場合に、成年後見人にやってほしいことは、いずれの障害も「生活・医療等に関する契約や手続き」、「福祉サービスの契約や手続き」、「預貯金等の管理・解約」などが多い。

◎悩みや困りごとを相談できる人の有無（問17）

【全体】

- ・「いる」82.2%、「いない」11.7%である。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、全体と同様「いる」が8割を超えている。

図表9 相談できる人の有無（全体、障害の種類別）

		(%)			
		いる	いない	無回答	
	全体	(N=1,413)	82.2	11.7	6.1
障害種別	身体障害者	(n=645)	81.1	12.1	6.8
	知的障害者	(n=180)	81.1	8.3	10.6
	精神障害者	(n=319)	82.1	14.1	3.8
	難病患者	(n=211)	87.2	11.4	1.4

◎相談先（問17-1：複数回答）

【全体】

- ・問17で「いる」と回答した人に悩みや困りごとを相談した経験があるかたずねたところ、「家族・親族」（68.6%）が最も多く、「友人・知人」（34.9%）、「医師、看護師、医療相談員など」（21.4%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「家族・親族」（身体81.1%、知的81.1%、精神82.1%、難病：87.2%）が最も多い。
- ・2番目に多い相談先は、身体障害者と難病患者は「友人・知人」（身体37.1%、難病患者49.5%）、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所」（29.5%）、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員など」（36.3%）となっている。

図表10 相談先（全体、障害の種類別：複数回答）

<相談できる人が「いる」と回答した人>

			家族・親族	友人・知人	学校	自分と同じ状況の仲間	民生・児童委員	地域生活支援センター	相談支援事業所	障害者施設・サービス提供事業所	高齢者・介護保険サービス事業所	介護保険のケアマネジャー	市役所（保健センター等も含む）	東京都の保健所	(%)
全体		(n=1,161)	68.6	34.9	1.0	8.2	0.0	4.8	4.7	8.7	0.9	6.0	6.5	0.4	
障害種別	身体障害者	(n=523)	71.5	37.1	0.4	8.0	0.0	3.3	1.0	3.6	1.3	10.3	7.3	0.2	
	知的障害者	(n=146)	74.0	15.8	4.1	8.9	0.0	11.0	13.7	29.5	1.4	1.4	3.4	0.0	
	精神障害者	(n=262)	55.7	31.7	1.1	10.7	0.0	6.5	10.3	13.4	0.8	1.1	7.3	0.0	
	難病患者	(n=184)	73.9	49.5	0.5	5.4	0.0	1.6	1.1	1.6	0.0	2.2	5.4	1.6	

			医師、看護師、医療相談員など	その他	いない	無回答
全体		(n=1,161)	21.4	5.0	4.7	10.2
障害種別	身体障害者	(n=523)	17.2	4.2	4.8	10.5
	知的障害者	(n=146)	12.3	4.1	6.8	5.5
	精神障害者	(n=262)	36.3	9.2	3.4	11.8
	難病患者	(n=184)	20.7	2.2	4.9	12.0

◎成年後見制度を利用する場合に成年後見人等にやってほしいこと（問23：複数回答）

【全体】

- ・「生活・医療等に関する契約や手続き」（52.6%）が最も多く、「福祉サービスの契約や手続き」（45.9%）、「預貯金等の管理・解約」（39.3%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・いずれも、上位3位は全体と同様の傾向を示している。

図表11 後見人等にやってほしいこと（全体、障害の種類別：複数回答）

			預貯金等の管理・解約	生活・医療等に関する契約や手続き	福祉サービスの契約や手続き	不動産の処分	相続手続	保険金受取り	訴訟手続	その他	無回答	(%)
全体		(N=1,413)	39.3	52.6	45.9	14.8	30.2	17.7	12.0	7.4	27.0	
障害種別	身体障害者	(n=645)	32.2	45.3	39.4	12.9	26.2	13.8	8.5	6.4	37.5	
	知的障害者	(n=180)	57.8	67.8	66.7	18.3	35.6	28.9	18.9	8.9	12.8	
	精神障害者	(n=319)	42.6	56.7	46.1	15.0	36.7	19.1	15.7	11.6	16.3	
	難病患者	(n=211)	45.0	60.2	53.6	20.4	32.7	19.4	12.3	1.9	19.4	

(4) 防災

- ・地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は全体の1/4であるが、知的障害者では5割となっている。
- ・「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人は全体では2割近いが、精神障害者は3割近くである。
- ・災害時に困ること・不安なことは、身体障害者は「避難所まで避難できるか心配」、知的障害者、精神障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」、難病患者は「医療や常備薬の補給を受けられるか」が最も多い。知的障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」、「避難所まで避難できるか心配」も5割を超えているほか、精神障害者は「医療や常備薬の補給を受けられるか分からない」がほぼ6割となっている。

◎緊急時の単独避難（問24）

【全体】

- ・地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は23.8%である。

【障害の種類別】

- ・知的障害者は「できない」と回答した人が50.0%と半数となっている。

図表12 緊急時の単独避難（全体、障害の種類別）

		(%)			
		できる	できない	分からない	無回答
	全体 (N=1,413)	51.7	23.8	20.7	3.8
障害種別	身体障害者 (n=645)	49.3	28.1	18.1	4.5
	知的障害者 (n=180)	28.9	50.0	18.3	2.8
	精神障害者 (n=319)	53.0	10.0	33.5	3.4
	難病患者 (n=211)	79.1	7.1	12.3	1.4

◎地震や災害などが起きた場合の具体的な援助者（問18：複数回答）

【全体】

- ・「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人は17.2%である。

【障害の種類別】

- ・精神障害者は、「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人が27.6%である。

図表13 具体的な援助者（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)						
		家族	近所の人	障害者団体などの仲間	民生委員	その他	避難を助けてくれるような人はいない	無回答
	全体 (N=1,413)	71.1	16.1	3.5	1.2	5.7	17.2	4.0
障害種別	身体障害者 (n=645)	70.1	18.0	0.8	1.9	5.6	16.0	5.3
	知的障害者 (n=180)	85.0	14.4	13.3	1.7	7.8	7.8	3.3
	精神障害者 (n=319)	60.8	12.5	4.7	0.3	6.3	27.6	2.2
	難病患者 (n=211)	77.3	18.5	0.9	0.0	4.3	14.7	1.4

◎災害時に困ること・不安なこと（問26：複数回答）

【全体】

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」（50.2%）が最も多く、「医療や常備薬の補給を受けられるか」（49.3%）、「避難所まで避難できるか心配」（41.9%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「避難所まで避難できるか心配」（46.2%）が最も多い。
- ・知的障害者、精神障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」（知的65.0%、精神65.8%）が、難病患者は「医療や常備薬の補給を受けられるか」（60.2%）が最も多い。
- ・知的障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」（53.9%）、「避難所まで避難できるか心配」（51.7%）が5割を超えている。「困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない」（47.2%）も5割弱となっている。

図表14 災害時の不安や心配ごと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)							
		避難所まで避難できるか心配	市の緊急速報メールを受信できるか分からない	困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない	避難を支援してくれる人がいない	災害や避難に関する情報が得られるか心配	障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない	大勢の人の中での避難所生活に不安がある	
	全体	(N=1,413)	41.9	19.3	18.0	13.1	24.6	34.9	50.2
障害種別	身体障害者	(n=645)	46.2	20.5	9.0	11.0	24.5	37.7	42.0
	知的障害者	(n=180)	51.7	25.0	47.2	15.6	27.8	53.9	65.0
	精神障害者	(n=319)	36.7	20.1	27.6	19.7	27.3	36.1	65.8
	難病患者	(n=211)	26.5	9.5	9.0	7.6	22.3	12.8	41.7

		医療や常備薬の補給を受けられるか分からない	呼吸器等に使用する非常用電源を利用できるか分からない	障害等のある人が利用できる防災マニュアルや防災マップがない	避難場所が分からず、自宅に残った場合に、水や食料の補給が受けられない	その他	無回答	
	全体	(N=1,413)	49.3	4.2	14.8	34.0	7.5	9.4
障害種別	身体障害者	(n=645)	44.0	5.1	16.4	31.0	7.0	11.9
	知的障害者	(n=180)	40.6	5.6	19.4	43.9	8.3	6.1
	精神障害者	(n=319)	58.6	3.1	16.3	40.4	9.7	4.7
	難病患者	(n=211)	60.2	2.4	5.7	26.5	5.2	9.0

(5) 医療

- ・入院経験がある人は8割近くで、身体障害者は全体より10ポイント以上高い。退院するにあたり困ったことは、「必要な医療が受けられるか」が最も多く、「退院後十分な収入があるか」、「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」、「コミュニケーションがとれるか」、「必要な支援や機能訓練が受けられるか」が続いている。
- ・現在受けている治療は「定期的に通院している」が7割台である。通院などで困っていることは「交通費の負担が大きい」が最も多く、次いで「入院費用など医療費の負担が大きい」などである。

◎入院の経験（問30）

【全体】

- ・「ある」は78.8%である。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「ある」が89.0%で、全体より10ポイント以上高い。

図表15 入院の経験（全体、障害の種類別）

		（%）		
		ある	ない	無回答
	全体 (N=1,413)	78.8	18.2	3.0
障害種別	身体障害者 (n=645)	89.0	8.4	2.6
	知的障害者 (n=180)	58.9	37.2	3.9
	精神障害者 (n=319)	66.1	31.3	2.5
	難病患者 (n=211)	82.9	15.2	1.9

◎退院するにあたり困ったこと（問30-1）

【全体】

- ・「必要な医療が受けられるか」（25.7%）が最も多く、「退院後十分な収入があるか」（18.1%）、「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」と「コミュニケーションがとれるか」（それぞれ15.8%）、「必要な支援や機能訓練が受けられるか」（14.5%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、難病患者は、「必要な医療が受けられるか」（身体25.4%、難病24.0%）が最も多い。
- ・知的障害者は「コミュニケーションがとれるか」（34.9%）が最も多い。
- ・精神障害者は「退院後十分な収入があるか」（31.3%）が最も多く、「必要な医療が受けられるか」（29.4%）が続いている。

図表16 退院するにあたり困ったこと（全体、障害の種類別）

<入院の経験がある人>

		（%）													
		合計	コミュニケーションがとれるか	退院後日常的の介助者がいるか	退院後住宅が確保できるか	退院後働く場があるか	退院後十分な収入があるか	入院保証人を確保できるか	必要な支援や機能訓練が受けられるか	必要な医療が受けられるか	緊急時にすぐに助けにきてもらえるか	家族の理解が得られた	近隣の理解が得られた	その他	無回答
	全体 (n=1,114)	15.8	10.1	4.6	12.0	18.1	9.5	14.5	25.7	15.8	3.9	1.6	12.7	26.7	
障害種別	身体障害者 (n=574)	12.2	10.8	3.1	9.6	16.2	9.8	15.3	25.4	16.7	1.4	0.9	11.1	31.2	
	知的障害者 (n=106)	34.9	9.4	2.8	2.8	3.8	7.5	16.0	25.5	17.9	0.9	2.8	15.1	26.4	
	精神障害者 (n=211)	22.7	10.0	11.4	23.7	31.3	10.0	15.2	29.4	14.7	12.8	3.8	11.8	17.1	
	難病患者 (n=175)	10.3	8.0	3.4	12.6	18.9	9.7	7.4	24.0	13.1	4.0	1.1	14.3	25.1	

◎現在受けている治療（問32-1）

【全体】

- ・「定期的に通院している」（75.9%）が最も多く、その他は1割に満たない。

【障害の種類別】

- ・精神障害者と難病患者は「定期的に通院している」（精神83.7%、難病91.0%）が8割を超えている。

図表17 現在受けている医療（全体、障害の種類別）

			自宅で往診や訪問看護を受けている	ときどき通院している	定期的に通院している	治療は受けていない	その他	無回答
	全体	(N=1,413)	4.2	6.0	75.9	6.2	1.5	6.2
障害種別	身体障害者	(n=645)	5.9	6.2	72.1	7.8	2.0	6.0
	知的障害者	(n=180)	3.9	11.7	61.1	14.4	2.2	6.7
	精神障害者	(n=319)	2.5	4.1	83.7	1.9	1.3	6.6
	難病患者	(n=211)	1.9	3.3	91.0	0.0	0.0	3.8

◎通院などで困っていること（問32-2：複数回答）

【全体】

- ・「自宅で往診や訪問介護を受けている」、「ときどき通院している」、「定期的に通院している」と回答した人に、通院などで困っていることをたずねると、「交通費の負担が大きい」（20.0%）が最も多く、次いで「入院費用など医療費の負担が大きい」（17.7%）が続いている。「特に困っていない」は46.8%である。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者は「交通費の負担が大きい」（身体16.4%、精神：29.5%）が最も多い。
- ・知的障害者は「ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない」（16.7%）が最も多い。
- ・難病患者は「入院費用など医療費の負担が大きい」（27.1%）が最も多い。

図表18 通院での困りごと（全体、障害の種類別：複数回答）

<通院して医師の治療を受けている人>

			通院するときに介助してくれる人がいない	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	専門的なリハビリができる機関が身近にない	ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯医者を受診しにくい	入院費用など医療費の負担が大きい	交通費の負担が大きい	特に困っていない	その他	無回答
	全体	(n=1,217)	5.2	9.9	4.4	7.2	8.3	7.7	17.7	20.0	46.8	7.0	5.8
障害種別	身体障害者	(n=543)	5.0	8.7	4.1	6.6	8.5	5.7	14.7	16.4	51.0	5.3	7.2
	知的障害者	(n=138)	8.7	14.5	6.5	16.7	10.9	13.0	8.7	12.3	39.9	8.7	6.5
	精神障害者	(n=288)	5.6	10.1	4.9	4.5	6.6	11.5	21.2	29.5	42.4	10.4	4.5
	難病患者	(n=203)	2.0	9.4	3.0	7.4	8.9	5.4	27.1	20.2	48.3	5.9	2.0

(6) 地域

- ・近隣に住む人とのつきあいは「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」が最も多いが、知的障害者と精神障害者は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が2割台で全体より高い。
- ・共生社会（ノーマライゼーション）は市民に理解されているかたずねたところ、「いいえ」は全体で6割を超え、知的障害者、精神障害者、難病患者は全体よりも高い。
- ・どのようなことがあれば共生社会（ノーマライゼーション）が理解されていると思うかをたずねたところ、身体障害者は「思いやりのある声かけがあること」、知的障害者、精神障害者、難病患者は「特別な目で見ないこと」が最も多い。
- ・必要とする合理的配慮は、「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」が最も多い。
- ・地域の一員として、安心して自分らしい暮らしが「できていない」と感じる人はほぼ1割で、その理由は「地域の中に頼れる友人・知人がいない」が最も多い。精神障害者では「地域の中に居場所がない」も多い。

◎近隣に住む人とのつきあいの程度（問33）

【全体】

- ・「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」（36.8%）が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」（19.4%）、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない（16.5%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・知的障害者と精神障害者は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」（知的23.3%、精神27.6%）が2割台である。

図表19 近所づきあいの現状（全体、障害の種類別）

		(%)						
			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話はなくても、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答
	全体	(N=1,413)	6.6	19.4	36.8	12.5	16.5	8.2
障害種別	身体障害者	(n=645)	7.9	25.4	34.9	9.8	10.9	11.2
	知的障害者	(n=180)	2.2	8.9	42.2	16.1	23.3	7.2
	精神障害者	(n=319)	3.1	12.9	35.4	16.3	27.6	4.7
	難病患者	(n=211)	10.0	19.0	40.3	14.2	13.7	2.8

(7) 共生社会

◎共生社会（ノーマライゼーション）は市民に十分理解されているか（問36）

【全体】

- ・「はい」29.1%、「いいえ」62.4%である。

【障害の種類別】

- ・知的障害者は「いいえ」（70.6%）が全体より8ポイント以上高い。

図表20 市民のノーマライゼーションの理解（全体、障害の種類別）

		（%）		
		はい	いいえ	無回答
	全体 (N=1,413)	29.1	62.4	8.5
障害種別	身体障害者 (n=645)	32.4	56.9	10.7
	知的障害者 (n=180)	21.1	70.6	8.3
	精神障害者 (n=319)	28.2	67.1	4.7
	難病患者 (n=211)	29.9	66.4	3.8

◎どのようなことがあれば「理解されている」と思うか（問36-1：複数回答）

【全体】

- ・問29で「いいえ」と回答した人に、どのようなことがあれば「理解されている」と思うかをたずねたところ「特別な目で見ないこと」（52.7%）が最も多く、「自分のことを理解して適切な配慮があること」（34.8%）、「思いやりのある声かけがあること」（34.0%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「思いやりのある声かけがあること」（36.8%）、知的障害者、精神障害者、難病患者は「特別な目で見ないこと」（知的50.4%、精神50.0%、難病40.0%）が最も多い。
- ・知的障害者と精神障害者は、「自分のことを理解して適切な配慮があること」（知的46.5%、精神46.7%）が全体より10ポイント以上高い。

図表21 どのようなことがあれば理解されていると思うか（全体、障害の種類別：複数回答）
 <共生社会（ノーマライゼーション）は市民に十分理解されていないと答えた人>

		（%）								
		特別な目で見ないこと	自分のことを理解して、適切な配慮があること	自分がやりたいことへの助けがあること	思いやりのある声かけがあること	無視せず、話を聞くこと	トイレや駅などを利用しやすいこと	車いすでの入店ができること	その他	無回答
	全体 (n=882)	41.2	34.8	17.1	34.0	15.4	25.3	12.9	8.7	5.6
障害種別	身体障害者 (n=367)	33.8	28.3	13.9	36.8	15.3	35.4	18.0	10.6	5.2
	知的障害者 (n=127)	50.4	46.5	23.6	47.2	16.5	18.9	5.5	3.9	6.3
	精神障害者 (n=214)	50.0	46.7	20.6	24.3	19.2	13.6	5.6	7.0	4.7
	難病患者 (n=140)	40.0	28.6	15.7	31.4	8.6	25.7	19.3	9.3	6.4

◎必要とする合理的配慮（問37：複数回答）

【全体】

- ・「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（46.9%）が最も多く、「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」（25.3%）、障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」（25.2%）、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」（23.9%）、「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」（23.8%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、難病患者は、「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（身体48.4%、知的53.9%、難病51.7%）が最も多い。精神障害者は、「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」（42.3%）が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「移動を手伝う（段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など）」（26.5%）、知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」（43.3%）、精神障害者は「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（38.9%）、難病患者は「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」（24.2%）となっている。

図表22 必要とする合理的配慮（全体、障害の種類別：複数回答）

													(%)
		困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する	障害等のある人の歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、希望を聞く	車いすの利用者が利用しやすいようカウンターの高さに配慮する	移動を手伝う(段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など)	障害等の特性により、頻繁に離席の必要がある場合に、会場の座席位置を扉付近にする	音や肌触り、室温など感覚面の調整を行う	疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける	物の位置を分かりやすく伝える	収納を手伝う(手の届きにくいところにあるものをとる、しまうなど)	障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる	ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける	漢字を少なくする、ルビを振るなどの配慮をする
	全体 (N=1,413)	46.9	20.0	14.9	20.2	15.1	9.4	25.3	14.4	10.0	23.8	23.9	9.4
障害種別	身体障害者 (n=645)	48.4	26.4	18.0	26.5	15.3	6.0	16.6	14.4	11.2	22.5	20.3	7.3
	知的障害者 (n=180)	53.9	18.3	12.8	17.8	18.9	15.6	29.4	16.7	7.8	35.0	43.3	18.9
	精神障害者 (n=319)	38.9	11.9	9.1	11.3	16.3	15.4	42.3	15.0	10.0	27.6	24.1	10.3
	難病患者 (n=211)	51.7	18.0	16.6	19.4	11.4	7.6	24.2	12.8	10.0	15.6	20.4	8.1
	合計		伝える情報を紙に書くなどして整理し、ゆっくり具体的に伝えることを心掛ける	障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする	その他	分からない	無回答						
	全体 (N=1,413)	15.1	25.2	4.0	14.8	14.2							
障害種別	身体障害者 (n=645)	12.7	22.6	4.7	13.3	16.4							
	知的障害者 (n=180)	21.1	35.0	3.3	11.1	12.2							
	精神障害者 (n=319)	21.6	31.3	4.1	15.4	10.0							
	難病患者 (n=211)	9.0	19.0	3.3	19.9	10.4							

◎地域の一人として、安心して自分らしい暮らしができているか（問38）

【全体】

- ・「できている」は52.8%、「できていない」は10.1%である。

【障害の種類別】

- ・精神障害者は「できていない」（17.6%）が全体より7ポイント以上高い。

図表23 地域の一人として安心して自分らしい暮らしができているか（全体、障害の種類別）

			（%）			
			できている	できていない	分からない	無回答
障害種別	全体	(N=1,413)	52.8	10.1	31.7	5.4
	身体障害者	(n=645)	60.0	8.1	25.9	6.0
	知的障害者	(n=180)	49.4	8.9	35.6	6.1
	精神障害者	(n=319)	36.1	17.6	43.3	3.1
	難病患者	(n=211)	59.2	6.6	30.3	3.8

◎自分らしい暮らしができていないと感じる理由（問38-1：複数回答）

【全体】

- ・問31で自分らしい暮らしが「できていない」答えた人に、その理由をたずねたところ、「地域の中に頼れる友人・知人がいない」（51.7%）が最も多く、「地域の中に居場所がない」（32.9%）、「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」（32.2%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・いずれの障害種別も「地域の中に頼れる友人・知人がいない」（身体46.2%、知的50.0%、精神57.1%、難病64.3%）が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」（30.8%）、精神障害者は「地域の中に居場所がない」（44.6%）である。

図表24 自分らしい暮らしができていないと感じる理由（全体、障害の種類別：複数回答）

<自分らしい暮らしができていないと答えた人>

			（%）									
			地域の中に居場所がない	地域の中に頼れる友人・知人がいない	地域の中に余暇を楽しめる場所がない	希望する住まいが見つからない	希望する仕事が見つからない	診てもらえる医療機関がない	相談できる機関がない	生活を助けてくれる機関がない	その他	無回答
障害種別	全体	(n=143)	32.9	51.7	32.2	15.4	25.2	16.1	24.5	23.1	13.3	4.2
	身体障害者	(n=52)	23.1	46.2	30.8	9.6	13.5	21.2	19.2	25.0	17.3	5.8
	知的障害者	(n=16)	18.8	50.0	31.3	12.5	6.3	31.3	25.0	31.3	18.8	0.0
	精神障害者	(n=56)	44.6	57.1	35.7	25.0	39.3	8.9	26.8	23.2	10.7	0.0
	難病患者	(n=14)	35.7	64.3	28.6	7.1	35.7	7.1	35.7	14.3	7.1	7.1

(7) 施策

- ・ 充実を望む施策は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が最も多く、「各種相談事業を充実すること」、「障害等のある人が住宅を確保しやすくすること」が続いている。
- ・ 身体障害者は「各種相談を充実すること」、知的障害者は「グループホームを充実すること」、精神障害者は「精神状態の不安定に対する支援の充実」、難病患者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が最も多い。

◎充実を望む施策（問40：複数回答）

【全体】

- ・ 「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（23.7%）が最も多く、「各種相談事業を充実すること」（23.5%）、「障害等のある人が住宅を確保しやすくすること」（20.5%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・ 身体障害者は「各種相談を充実すること」（22.8%）、知的障害者は「グループホームを充実すること」（41.1%）、精神障害者は「精神状態の不安定に対する支援の充実」（39.5%）、難病患者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（26.4%）が最も多い。

図表25 充実を望む施策（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)												
		合計	各種相談事業を充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくすること	権利擁護事業や成年後見制度の取り組みを充実すること	障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	グループホームを充実すること	視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	障害等のある人や子どもに対する暴力や差別をなくすこと
	全体	(N=1,413)	23.5	20.5	6.3	23.7	14.9	13.9	10.5	14.9	12.2	6.4	10.5	13.0
障害種別	身体障害者	(n=645)	22.8	15.3	4.5	19.4	17.4	10.9	16.3	14.7	4.7	9.3	8.5	10.9
	知的障害者	(n=180)	18.3	22.8	13.9	25.6	10.6	23.3	6.1	21.7	41.1	0.6	10.0	15.0
	精神障害者	(n=319)	28.8	32.0	7.2	32.6	8.5	12.2	3.1	10.3	13.2	4.1	15.4	17.9
	難病患者	(n=211)	23.7	17.1	4.7	24.6	20.4	18.5	8.5	16.6	10.0	6.2	9.5	11.4
		合計	障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること	障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること	精神状態の不安定に対する支援の充実	その他	分からない							
	全体	(N=1,413)	14.0	5.8	16.5	4.0	21.8							
障害種別	身体障害者	(n=645)	13.5	4.5	6.8	2.8	21.4							
	知的障害者	(n=180)	19.4	17.2	11.7	4.4	15.0							
	精神障害者	(n=319)	14.7	1.6	39.5	6.3	21.6							
	難病患者	(n=211)	13.3	8.1	15.2	4.7	31.8							

【障害の種類×年代別】

- ・身体障害者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（それぞれ36.4%、26.9%）、65歳以上は「各種相談事業を充実すること」（21.4%）が最も多い。その他では、40～64歳で「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」が全体より13ポイント以上高くなっている。
- ・知的障害者では、18～39歳と40～64歳は「グループホームを充実すること」（それぞれ46.9%、27.7%）が最も多く、次いで多いのは「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（それぞれ26.6%、25.5%）となっている。
- ・精神障害者では、18～39歳と40～64歳は「精神状態の不安定に対する支援の充実」（それぞれ46.1%、36.6%）が最も多くなっている。次いで多いのは、18～39歳は障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（44.3%）、「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」（38.3%）、40～64歳は「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」（28.5%）、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（27.4%）となっている。
- ・難病患者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（それぞれ36.2%、24.8%）が、65歳以上は「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」（31.9%）が最も多い。次いで多いのは、18歳～39歳で「精神状態の不安定に対する支援の充実」（25.5%）、40歳～64歳は「各種相談事業を充実すること」（23.1%）、65歳以上は「利用できる通所施設を整備すること」（29.8%）となっている。

図表26 充実を望む施策（全体、障害の種類×年代別：複数回答）

(%)

			各種相談事業を充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくすること	権利擁護事業や成年後見制度の取り組みを充実すること	障害等のある人の働く場の確保や就労の定着をすること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	グループホームを充実すること
全体		(N=1,413)	23.5	20.5	6.3	23.7	14.9	13.9	10.5	14.9	12.2
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳 (n=22)	27.3	27.3	0.0	36.4	9.1	4.5	22.7	0.0	0.0
		40～64歳 (n=212)	25.5	22.6	3.8	26.9	14.2	10.4	23.6	14.6	3.8
		65歳以上 (n=407)	21.4	11.1	5.2	14.7	19.7	11.5	12.3	15.7	5.4
	知的障害者	18～39歳 (n=128)	23.4	23.4	15.6	26.6	9.4	25.8	6.3	22.7	46.9
		40～64歳 (n=47)	6.4	23.4	10.6	25.5	12.8	19.1	4.3	21.3	27.7
		65歳以上 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	精神障害者	18～39歳 (n=115)	33.9	38.3	13.0	44.3	5.2	14.8	2.6	12.2	20.0
		40～64歳 (n=186)	26.3	28.5	4.3	27.4	10.8	11.8	3.8	9.7	9.7
		65歳以上 (n=17)	17.6	23.5	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9
	難病患者	18～39歳 (n=47)	21.3	21.3	4.3	36.2	6.4	14.9	10.6	12.8	6.4
		40～64歳 (n=117)	23.1	17.9	1.7	24.8	21.4	15.4	6.0	15.4	10.3
		65歳以上 (n=47)	27.7	10.6	12.8	12.8	31.9	29.8	12.8	23.4	12.8

			視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	障害等のある人や子どもに対する暴力や差別をなくすること	障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること	障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること	精神状態の不安定に対する支援の充実	その他	分からない
全体		(N=1,413)	6.4	10.5	13.0	14.0	5.8	16.5	4.0	21.8
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳 (n=22)	4.5	22.7	18.2	13.6	0.0	9.1	13.6	13.6
		40～64歳 (n=212)	12.7	9.4	14.2	17.5	4.2	11.3	3.8	20.8
		65歳以上 (n=407)	7.9	7.4	8.8	11.5	4.9	4.4	1.7	21.9
	知的障害者	18～39歳 (n=128)	0.8	10.2	20.3	21.9	18.8	10.2	5.5	18.8
		40～64歳 (n=47)	0.0	8.5	2.1	12.8	12.8	14.9	2.1	6.4
		65歳以上 (n=5)	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	精神障害者	18～39歳 (n=115)	2.6	22.6	17.4	18.3	1.7	46.1	7.8	21.7
		40～64歳 (n=186)	5.4	12.4	19.4	12.9	1.6	36.6	5.4	21.5
		65歳以上 (n=17)	0.0	0.0	5.9	11.8	0.0	23.5	5.9	23.5
	難病患者	18～39歳 (n=47)	8.5	6.4	10.6	19.1	12.8	25.5	4.3	36.2
		40～64歳 (n=117)	6.8	12.0	13.7	14.5	7.7	13.7	5.1	32.5
		65歳以上 (n=47)	2.1	6.4	6.4	4.3	4.3	8.5	4.3	25.5

5 子どもの育ちや発達に関する調査（調査2）

- ・「障害の種類」は、F4（所持する手帳または受給者証の種類）の記載をもとに、以下のように分類して集計している。
- ・いずれの手帳にも○をつけなかった方は障害の種類別の集計結果には含まれないが、全体の集計結果に含まれている。
- ・母数が1桁台の集計結果については、言及しないことがある。

身体障害者：身体障害者手帳のみ○をつけた方

身体障害者手帳と児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

知的障害者：愛の手帳に○をつけた方（他の手帳や受給者証を所持している方を含む）

精神障害者：精神障害者保健福祉手帳のみ○をつけた方

精神障害者保健福祉手帳、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

精神障害者保健福祉手帳、特定医療費受給者証、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

難病患者：特定医療費受給者証のみ○をつけた方

身体障害者手帳と特定医療費受給者証に○をつけた方

特定医療費受給者証と児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

児童通所・障害福祉サービス利用者：児童通所受給者証、障害福祉サービス受給者証のみ○をつけた方

		(人)	(%)
全体		585	100.0
障害種別	身体障害者	76	13.0
	知的障害者	394	67.4
	精神障害者	39	6.7
	難病患者	53	9.1
	無回答	23	3.9

年齢別の内訳

(上段：人、下段：%)

		乳幼児期	学齢期	中学校卒業後～17歳	無回答	
全体		585	75	263	235	12
		100.0	12.8	45.0	40.2	2.1
障害種別	身体障害者	76	15	36	24	1
		100.0	19.7	47.4	31.6	1.3
	知的障害者	394	47	179	167	1
		100.0	11.9	45.4	42.4	0.3
	精神障害者	39	0	18	21	0
	100.0	0.0	46.2	53.8	0.0	
難病患者	53	11	22	18	2	
	100.0	20.8	41.5	34.0	3.8	

- ・現在、通園・通学している人は9割を超える。
- ・通園・通学で困っていることは、身体障害者、知的障害者は「通園・通学の送迎が大変」が最も多い。精神障害者は、「通っている園・学校の配慮が十分ではない」、「その他」が最も多く、「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」が続いている。
- ・難病患者では、「通っている園・学校の配慮が十分ではない」が最も多くなっている。

◎通園・通学先（問1）

【全体】

- ・「どこにも通っていない」と「無回答」を除いた＜現在、通園・通学している人＞は97.1%である。

【障害の種類別】

- ・＜現在、通園・通学している人＞は、身体障害者は93.8%、知的障害者は97.7%、精神障害者は100.0%、難病患者は94.3%である。

図表27 通園・通学先（全体、障害の種類別）

													(%)
		保育所・ 保育園・ 保育ルーム	幼稚園	特別支援 学校幼稚 部	公立小学 校(通常 の学級に 在籍)	公立小学 校(通常 の学級に 在籍し通 級指導学 級・特別 支援教室 も利用)	公立小学 校(特別 支援学級 に在籍)	特別支援 学校小学 部	私立小学 校	公立中学 校(通常 の学級に 在籍)	公立中学 校(通常 の学級に 在籍し特 別支援教 室も利用)	公立中学 校(特別 支援学級 に在籍)	
全体		(N=585)	6.8	1.4	0.2	8.5	3.6	12.1	19.7	0.5	3.8	2.1	5.8
障害種別	身体障害者	(n=76)	9.2	3.9	0.0	19.7	6.6	1.3	15.8	1.3	6.6	0.0	0.0
	知的障害者	(n=394)	6.6	0.3	0.3	1.5	1.3	16.8	25.1	0.5	2.0	0.8	7.9
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	7.7	17.9	7.7	5.1	0.0	5.1	17.9	7.7
	難病患者	(n=53)	11.3	3.8	0.0	35.8	5.7	0.0	0.0	0.0	9.4	3.8	0.0

													(%)
		特別支援 学校中学 部	私立中学 校	高等学校 (通常 の学級に 在籍)	高等学校 (通常 の学級に 在籍し通 級指導学 級も利用)	特別支援 学校高等 部	学びの多 様化学級	その他	どこにも 通ってい ない	無回答	現在、通 園・通学 している 人(再 掲)		
全体		(N=585)	9.4	0.7	4.3	0.3	12.1	0.3	5.5	1.9	1.0	97.1	
障害種別	身体障害者	(n=76)	6.6	0.0	6.6	1.3	6.6	1.3	6.6	3.9	2.6	93.4	
	知的障害者	(n=394)	12.4	0.0	1.3	0.0	16.0	0.0	5.1	1.3	1.0	97.7	
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	12.8	0.0	5.1	2.6	10.3	0.0	0.0	100.0	
	難病患者	(n=53)	0.0	3.8	15.1	1.9	0.0	0.0	3.8	5.7	0.0	94.3	

◎通園・通学で困っていること（問1-1：複数回答）

【全体】

- ・通園・通学で困っていることは、「特にない」（53.7%）と「無回答」（3.6%）を除く42.7%がなんらかの理由で困っている。「通園・通学の送迎が大変」（18.0%）が最も多く、次いで「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」（8.2%）などが続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は29.2%、知的障害者は47.1%、精神障害者は61.8%、難病患者は29.2%がなんらかの理由で困っている。
- ・身体障害者、知的障害者は「通園・通学の送迎が大変」（身体12.3%、知的23.3%）が最も多い。
- ・精神障害者は、「通っている園・学校の配慮が十分ではない」、「その他」（それぞれ20.6%）が最も多く、「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」（17.6%）が続いている。
- ・難病患者では、「通っている園・学校の配慮が十分ではない」（12.5%）が最も多くなっている。

図表28 通園・通学での困りごと（全体、障害の種類別：複数回答）

<通園・通学している人>

			通わせない園・学校に通えない	通園・通学の送迎が大変	通っている園・学校の配慮が十分ではない	通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない	その他	特にない	無回答	(%) 困っていることがある人 (再掲)
	全体	(n=534)	0.9	18.0	4.7	8.2	10.9	53.7	3.6	42.7
障害種別	身体障害者	(n=65)	1.5	12.3	3.1	7.7	4.6	66.2	4.6	29.2
	知的障害者	(n=365)	1.1	23.3	2.7	7.9	12.1	49.3	3.6	47.1
	精神障害者	(n=34)	0.0	2.9	20.6	17.6	20.6	35.3	2.9	61.8
	難病患者	(n=48)	0.0	0.0	12.5	8.3	8.3	68.8	2.1	29.2

(2) 障害福祉サービスの利用

- ・現在よく利用されているサービスは、身体障害者では「補装具費の支給・日常生活用具費」、知的障害者、精神障害者、難病患者では「放課後等デイサービス」である。
- ・サービスの「満足度」は約6割である。サービスに不満な理由は、「希望する曜日・時間帯に使えない」が最も多く、「希望する事業者や施設が見つからない」、「サービスの情報が入手しにくい」、「希望通りの内容でサービスが使えない」が続いている。
- ・今後利用したいサービスは、「日中一時支援」、「移動支援」、「短期入所（ショートステイ）」が比較的多い。

◎障害福祉サービスの利用状況・利用意向（問6）

【全体】

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせた<利用者層>は、『放課後等デイサービス』（46.5%）が最も多く、『障害児相談支援』（23.6%）、『児童発達支援』（17.4%）、『補装具費の支給・日常生活用具費の給付（14.2%）』、『子ども発達支援センターはばたき』（6.8%）が続いている。
「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後利用したい」をあわせた<未利用者層>は、『日中一時支援』（34.5%）が最も多く、『移動支援』（32.5%）、『短期入所（ショートステイ）』（30.6%）が続いている。『行動援護』（25.0%）、『障害児相談支援』（20.7%）も2割を超えている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（38.2%）、<未利用者層>では『日中一時支援』、『移動支援』（21.1%）が最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』（56.3%）、<未利用者層>では『日中一時支援』（42.6%）が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』（43.6%）、<未利用者層>では『障害児相談支援』（33.3%）が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』（18.9%）、<未利用者層>では『放課後等デイサービス』（13.2%）『保育所等訪問支援』（13.2%）が最も多い。

図表29 障害福祉サービスの利用状況、利用意向（全体、障害の種類別）

(1)居宅介護（ホームヘルプ）

		(%)										
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	2.6	1.4	0.7	0.2	10.3	25.6	33.5	25.8	3.9	11.1
障害種別	身体障害者	(n=76)	5.3	2.6	0.0	0.0	9.2	25.0	42.1	15.8	7.9	9.2
	知的障害者	(n=394)	2.5	1.5	1.0	0.3	12.4	22.1	32.0	28.2	4.1	13.7
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	41.0	23.1	30.8	0.0	5.1
	難病患者	(n=53)	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	43.4	20.8	1.9	0.0

(2)同行援護

		(%)										
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	0.0	0.0	0.2	0.3	4.3	27.5	36.6	31.1	0.0	4.8
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	25.0	50.0	19.7	0.0	5.3
	知的障害者	(n=394)	0.0	0.0	0.3	0.5	4.3	24.6	35.0	35.3	0.0	5.1
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	43.6	20.5	28.2	0.0	7.7
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.8	43.4	20.8	0.0	0.0

(3)行動援護

		(%)										
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	0.7	0.9	1.9	0.9	22.2	19.3	29.9	24.3	1.5	25.0
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	51.3	23.7	0.0	0.0
	知的障害者	(n=394)	1.0	1.0	2.3	1.3	31.7	14.2	23.6	24.9	2.0	35.3
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	5.1	0.0	10.3	25.6	33.3	25.6	0.0	15.4
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.8	43.4	20.8	0.0	0.0

(4)短期入所（ショートステイ）

		(%)										
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	2.1	3.2	6.2	1.5	22.9	19.5	22.6	22.1	5.3	30.6
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	5.3	5.3	0.0	13.2	23.7	38.2	14.5	5.3	18.4
	知的障害者	(n=394)	3.0	3.6	7.9	2.3	29.4	14.0	16.8	23.1	6.6	39.6
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	2.6	0.0	7.7	33.3	28.2	28.2	0.0	10.3
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	35.8	39.6	22.6	0.0	1.9

(5)児童発達支援

		(%)										
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	13.2	4.3	2.4	1.5	9.2	16.4	25.1	27.9	17.4	13.2
障害種別	身体障害者	(n=76)	5.3	6.6	0.0	2.6	7.9	21.1	35.5	21.1	11.8	10.5
	知的障害者	(n=394)	16.0	3.8	2.8	1.5	10.4	12.9	22.1	30.5	19.8	14.7
	精神障害者	(n=39)	10.3	5.1	7.7	2.6	5.1	17.9	20.5	30.8	15.4	15.4
	難病患者	(n=53)	9.4	3.8	0.0	0.0	5.7	28.3	35.8	17.0	13.2	5.7

(6)放課後等デイサービス

		(%)										
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	32.8	13.7	6.0	1.5	10.8	10.4	13.0	11.8	46.5	18.3
障害種別	身体障害者	(n=76)	17.1	7.9	5.3	1.3	11.8	15.8	27.6	13.2	25.0	18.4
	知的障害者	(n=394)	39.8	16.5	6.9	1.3	11.4	6.1	7.1	10.9	56.3	19.5
	精神障害者	(n=39)	33.3	10.3	2.6	7.7	5.1	12.8	10.3	17.9	43.6	15.4
	難病患者	(n=53)	13.2	5.7	3.8	0.0	9.4	22.6	35.8	9.4	18.9	13.2

(7)保育所等訪問支援

		(%)										
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	2.6	0.9	1.7	0.7	12.5	18.3	35.7	27.7	3.4	14.9
障害種別	身体障害者	(n=76)	2.6	0.0	0.0	0.0	18.4	22.4	35.5	21.1	2.6	18.4
	知的障害者	(n=394)	3.0	0.8	2.0	0.8	11.2	15.7	36.0	30.5	3.8	14.0
	精神障害者	(n=39)	0.0	2.6	2.6	2.6	15.4	20.5	28.2	28.2	2.6	20.5
	難病患者	(n=53)	1.9	1.9	0.0	0.0	13.2	26.4	39.6	17.0	3.8	13.2

(8) 居宅訪問型児童発達支援

		(%)										
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	0.2	0.2	0.7	0.3	3.6	27.0	37.6	30.4	0.3	4.6
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	28.9	44.7	22.4	0.0	3.9
	知的障害者	(n=394)	0.3	0.3	0.8	0.5	3.6	23.6	37.3	33.8	0.5	4.8
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	43.6	23.1	30.8	0.0	2.6
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	34.0	39.6	20.8	0.0	5.7

(9) 障害児相談支援

		(%)										
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	20.2	3.4	4.6	1.4	14.7	10.9	25.6	19.1	23.6	20.7
障害種別	身体障害者	(n=76)	15.8	0.0	2.6	0.0	13.2	15.8	36.8	15.8	15.8	15.8
	知的障害者	(n=394)	25.1	4.8	5.3	1.3	16.0	6.9	21.3	19.3	29.9	22.6
	精神障害者	(n=39)	10.3	0.0	10.3	7.7	15.4	15.4	20.5	20.5	10.3	33.3
	難病患者	(n=53)	1.9	1.9	0.0	0.0	9.4	20.8	45.3	20.8	3.8	9.4

(10) 移動支援

		(%)										
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	3.1	2.4	4.3	0.7	27.5	16.1	25.5	20.5	5.5	32.5
障害種別	身体障害者	(n=76)	1.3	0.0	0.0	0.0	21.1	19.7	46.1	11.8	1.3	21.1
	知的障害者	(n=394)	4.1	3.6	5.8	1.0	33.2	10.4	20.1	21.8	7.6	40.1
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	5.1	0.0	17.9	33.3	20.5	23.1	0.0	23.1
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	32.1	37.7	20.8	0.0	9.4

(11) 日中一時支援

		(%)										
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	1.9	1.2	3.4	1.5	29.6	15.2	25.0	22.2	3.1	34.5
障害種別	身体障害者	(n=76)	2.6	2.6	1.3	0.0	19.7	15.8	40.8	17.1	5.3	21.1
	知的障害者	(n=394)	2.3	1.3	4.6	2.3	35.8	10.9	19.5	23.4	3.6	42.6
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	2.6	0.0	20.5	28.2	25.6	23.1	0.0	23.1
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	30.2	39.6	20.8	0.0	9.4

(12) 意思疎通支援

		(%)										
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	0.2	0.0	0.0	0.0	2.4	26.8	38.8	31.8	0.2	2.4
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	21.1	51.3	22.4	0.0	5.3
	知的障害者	(n=394)	0.3	0.0	0.0	0.0	1.5	24.9	37.8	35.5	0.3	1.5
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	43.6	23.1	30.8	0.0	2.6
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	45.3	20.8	0.0	0.0

(13) 補装具費の支給等

		(%)										
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	8.5	5.6	0.0	0.0	6.2	21.4	30.6	27.7	14.2	6.2
障害種別	身体障害者	(n=76)	23.7	14.5	0.0	0.0	15.8	7.9	23.7	14.5	38.2	15.8
	知的障害者	(n=394)	7.9	5.6	0.0	0.0	5.1	20.1	31.0	30.5	13.5	5.1
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	35.9	25.6	33.3	0.0	5.1
	難病患者	(n=53)	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	34.0	41.5	20.8	1.9	1.9

(14) 子ども発達支援センターはばたき

		(%)										
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	6.0	0.9	1.0	0.3	6.2	21.5	32.6	31.5	6.8	7.5
障害種別	身体障害者	(n=76)	3.9	0.0	1.3	1.3	6.6	19.7	44.7	22.4	3.9	9.2
	知的障害者	(n=394)	7.1	1.3	1.0	0.3	6.1	19.5	29.7	35.0	8.4	7.4
	精神障害者	(n=39)	2.6	0.0	2.6	0.0	12.8	20.5	30.8	30.8	2.6	15.4
	難病患者	(n=53)	3.8	0.0	0.0	0.0	1.9	34.0	41.5	18.9	3.8	1.9

◎福祉サービスの満足度（問6-1）

【全体】

・福祉サービスの満足度は、「満足」（23.3%）と「やや満足」（36.6%）をあわせた＜満足層＞は、59.9%である。「やや不満」（24.7%）と「不満」（8.0%）をあわせた＜不満層＞は32.6%である。

【障害の種類別】

・いずれの障害種別でも、＜満足層＞（身体60.5%、知的59.2%、精神54.5%、難病77.8%）が＜不満層＞（身体28.9%、知的34.4%、精神31.8%、難病16.7%）を上回っている。

図表30 障害福祉サービスの満足度（全体、障害の種類別）
＜障害福祉サービスを利用している人＞

		満足層		不満足層		無回答	（%）		
		満足	やや満足	やや不満	不満		満足層 （再掲）	不満足層 （再掲）	
	全体	(n=377)	23.3	36.6	24.7	8.0	7.4	59.9	32.6
障害種別	身体障害者	(n=38)	18.4	42.1	23.7	5.3	10.5	60.5	28.9
	知的障害者	(n=294)	24.1	35.0	25.9	8.5	6.5	59.2	34.4
	精神障害者	(n=22)	18.2	36.4	18.2	13.6	13.6	54.5	31.8
	難病患者	(n=18)	33.3	44.4	16.7	0.0	5.6	77.8	16.7

◎サービスの不満な理由（問6-2：複数回答）

【全体】

- ・ <不満層>にその理由をたずねたところ、「希望する曜日・時間帯に使えない」（55.3%）が最も多く、「希望する事業者や施設が見つからない」（48.8%）、「サービスの情報が入手しにくい（39.8%）」、「希望通りの内容でサービスが使えない」（39.0%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・ 身体障害者は、「希望通りの内容でサービスが使えない」（54.5%）が最も多い。
- ・ 知的障害者は、「希望する曜日・時間帯に使えない」（55.4%）が最も多い。
- ・ 精神障害者は、「希望する曜日・時間帯に使えない」（71.4%）が最も多い。
- ・ 難病患者は、回答者が3人しかいないが、「希望する曜日・時間帯に使えない」（66.7%）を2人が挙げている。

図表31 サービスの不満な理由（全体、障害の種類別：複数回答）
 <サービスの利用にあたって不満を感じている人>

		合計	サービス 支給量が 少ない	サービス の質が良 くない	希望通り の内容で サービス が使えな い	希望する 曜日・時 間帯に使 えない	希望する 事業者や 施設が見 つからな い	緊急時に 利用でき ない	費用負担 が大きい	利用方法 がわかり にくい	サービス 内容がわ かりにく い	サービス の情報が 入手しに くい	その他	無回答
全体		(n=123)	25.2	11.4	39.0	55.3	48.8	34.1	31.7	21.1	22.8	39.8	21.1	2.4
障害種別	身体障害者	(n=11)	18.2	0.0	54.5	45.5	36.4	27.3	36.4	9.1	27.3	27.3	27.3	0.0
	知的障害者	(n=101)	27.7	13.9	36.6	55.4	52.5	36.6	32.7	24.8	22.8	42.6	18.8	2.0
	精神障害者	(n=7)	14.3	0.0	28.6	71.4	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	42.9	42.9	14.3
	難病患者	(n=3)	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0

(3) 育ちや発達の状況

- ・育ちや発達について初めて気になった時期は、9割近くが就学前である。
- ・ほとんどが相談しており、相談先は「家族・親族」が最も多いが、「保育園・幼稚園・学校」、「東京都立の療育機関」、「医療機関（東京都立の療育機関）」が4割を超えて多い。
- ・相談の効果は「具体的な対応方法を考えることができた」が最も多く、「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」などである。
- ・育ちや発達に関して「診断を受けた」は9割近くである。
- ・ライフステージに応じた支援として希望することは、「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」が最も多く、「入学・進学などのタイミングで、お子さんへの支援情報が途切れないこと」、「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」が続いている。

◎子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期（問9）

【全体】

- ・子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期は、「0歳～2歳」（68.2%）が最も多く、「3歳～就学前」（17.8%）が続いている。就学前が9割近くになっている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「0歳～2歳」（身体67.1%、知的77.4%、精神46.2%、難病35.8%）が最も多い。
- ・精神障害者は、「3歳～就学前」（41.0%）も4割を超えている。

図表32 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期（全体、障害の種類別）

		合計	(%)					無回答	
			0歳～2歳	3歳～就学前	小学校	中学校	高等学校	気になったことはない	
	全体	(N=585)	68.2	17.8	5.3	0.7	0.0	7.0	1.0
障害種別	身体障害者	(n=76)	67.1	9.2	5.3	0.0	0.0	17.1	1.3
	知的障害者	(n=394)	77.4	17.5	4.1	0.0	0.0	0.5	0.5
	精神障害者	(n=39)	46.2	41.0	7.7	5.1	0.0	0.0	0.0
	難病患者	(n=53)	35.8	15.1	13.2	1.9	0.0	34.0	0.0

◎相談した人・相談機関（問10：複数回答）

【全体】

- ・「どこにも相談していない」と「無回答」を除いた＜相談経験のある人＞は94.2%である。
- ・相談先は「家族・親族」（74.0%）が最も多く、「保育園・幼稚園・学校」（52.1%）、「東京都立の療育機関」（47.4%）、「医療機関（東京都立の療育機関）」（46.2%）、「友人・知人」（37.9%）、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」（35.4%）、「市役所（保健センター等も含む）」（32.1%）、「子ども発達支援センターはばたき」（24.4%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・ <相談経験のある人>は、身体障害者は88.2%、知的障害者は99.0%、精神障害者は100.0%、難病患者は75.5%である。
- ・ 相談先は、「家族・親族（身体68.4%、知的77.9%、精神84.6%、難病62.3%）が最も多い。
- ・ 相談先として2番目に多いのは、身体障害者は「医療機関（東京都の療育機関を除く）」（57.9%）、知的障害者、精神障害者は「保育園・幼稚園・学校」（それぞれ55.3%、79.5%）、難病患者は「医療機関（東京都の療育機関を除く）」（39.6%）となっている。

図表33 相談した人・相談機関（全体、障害の種類別：複数回答）

		家族・親族	友人・知人	保育園・幼稚園・学校	お子さんと同じ状況の子どもがいる人	民生・児童委員	児童館	子ども家庭支援センターみらい	子ども発達支援センターはたき	地域生活支援センター	(%)
	全体	(N=585)	74.0	37.9	52.1	35.4	1.2	2.6	12.1	24.4	5.1
障害種別	身体障害者	(n=76)	68.4	35.5	38.2	22.4	0.0	3.9	9.2	9.2	1.3
	知的障害者	(n=394)	77.9	37.8	55.3	40.9	1.0	3.0	12.7	28.9	5.8
	精神障害者	(n=39)	84.6	66.7	79.5	41.0	2.6	0.0	20.5	38.5	10.3
	難病患者	(n=53)	62.3	28.3	37.7	18.9	3.8	0.0	7.5	7.5	3.8

		児童相談所	市役所（保健センター等も含む）	東京都の保健所	東京都立の療育機関	医療機関（東京都立の療育機関を除く）	その他	どこにも相談していない	無回答	相談経験のある人（再掲）	
	全体	(N=585)	18.5	32.1	6.2	47.4	46.2	13.7	5.1	0.7	94.2
障害種別	身体障害者	(n=76)	1.3	22.4	6.6	46.1	57.9	10.5	11.8	0.0	88.2
	知的障害者	(n=394)	23.6	35.3	6.1	52.0	44.7	14.0	0.8	0.3	99.0
	精神障害者	(n=39)	28.2	41.0	10.3	51.3	56.4	23.1	0.0	0.0	100.0
	難病患者	(n=53)	1.9	22.6	5.7	20.8	39.6	13.2	24.5	0.0	75.5

◎相談の効果（問10-1：複数回答）

【全体】

- ・ <相談経験のある人>に相談の効果をたずねたところ、「具体的な対応方法を考えることができた」（61.9%）が最も多い。
- ・ 「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」（53.7%）、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」（51.4%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者、難病患者は「具体的な対応方法を考えることができた」（身体46.3%、知的65.1%、難病67.5%）が最も多い。
- ・ 精神障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」と「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」（それぞれ59.0%）が最も多い。
- ・ 2番目に多いのは、身体障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」（41.8%）、知的障害者は「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」（57.4%）、精神障害者は「支援を受けて子どもが成長した」（56.4%）、難病患者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」（57.5%）となっている。

図表34 相談の効果（全体、障害の種類別：複数回答）

<相談した経験のある人>

		(%)										
		話を聞いてもらって気持ち楽になった	具体的な対応方法を考えることができた	適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった	家族で子どものことについて話し合う時間が増えた	支援を受けて子どもが成長した	様々な情報をもらい、子育ての役に立った	同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた	その他	特に変化はない	無回答	
	全体	(n=551)	51.4	61.9	53.7	28.7	46.1	42.3	43.0	2.5	4.4	0.2
障害種別	身体障害者	(n=67)	41.8	46.3	34.3	25.4	28.4	38.8	26.9	1.5	6.0	0.0
	知的障害者	(n=390)	51.5	65.1	57.4	29.0	50.0	43.6	48.2	2.6	4.1	0.0
	精神障害者	(n=39)	59.0	53.8	59.0	30.8	56.4	38.5	38.5	7.7	0.0	0.0
	難病患者	(n=40)	57.5	67.5	40.0	30.0	37.5	37.5	27.5	0.0	5.0	2.5

◎育ちや発達に関する診断の有無（問11）

【全体】

- ・「診断を受けた」86.3%、「診断を受けていない」10.9%である。

【障害の種類別】

- ・「診断を受けた」は、身体障害者は72.4%、知的障害者は95.7%、精神障害者は97.4%、難病患者は50.9%となっている。

図表35 育ちや発達に関する診断の有無（全体、障害の種類別）

		(%)			
			診断を受けた	診断を受けていない	無回答
	全体	(N=585)	86.8	10.9	2.2
障害種別	身体障害者	(n=76)	72.4	25.0	2.6
	知的障害者	(n=394)	95.7	2.8	1.5
	精神障害者	(n=39)	97.4	0.0	2.6
	難病患者	(n=53)	50.9	47.2	1.9

◎ライフステージに応じた支援として希望すること（問13：複数回答）

【全体】

- ・「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」（70.8%）が最も多く、「入学・進学などのタイミングで、お子さんへの支援情報が途切れないこと」（67.0%）、「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」（66.8%）が続いている。
- ・「不安なことなどがあったときに支援機関へとつないでくれる専門の職員がいること」（63.6%）、「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」（63.1%）、「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること」（62.2%）も6割を超えている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」（72.4%）が最も多い。
- ・知的障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」（77.2%）が最も多い。
- ・精神障害者は「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」（74.4%）が最も多い。
- ・難病患者は、「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」、「不安なことなどがあつたときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること」（それぞれ58.5%）が最も多い。

【障害の種類×年代別】

- ・身体障害者は、学齢期で「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」（83.3%）が全体より10ポイント以上高い。
- ・知的障害者は、学齢期ですべての項目が全体より高い。
- ・精神障害者は、学齢期で「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」（77.8%）が最も高い。
- ・難病患者は、中学校卒業後～17歳で、「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」（77.8%）が最も高い。

図表36 ライフステージに応じた支援として希望すること
(全体、障害の種類別、障害の種類×年代別：複数回答)

			乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること	入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと	入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること	お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること	不安なことなどがあつたときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること	子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること	その他	分からない	無回答	
全体		(N=585)	70.8	67.0	63.1	66.8	63.6	62.2	10.1	2.7	1.2	
障害種別・年代別	身体障害者	(n=76)	61.8	64.5	63.2	72.4	63.2	57.9	7.9	3.9	0.0	
	知的障害者	(n=394)	77.2	69.3	66.2	68.3	65.2	64.7	9.9	1.3	0.5	
	精神障害者	(n=39)	69.2	71.8	74.4	66.7	59.0	71.8	23.1	5.1	2.6	
	難病患者	(n=53)	49.1	58.5	45.3	56.6	58.5	52.8	5.7	5.7	1.9	
障害種別・年代別	身体障害者	乳幼児期	(n=15)	93.3	93.3	100.0	100.0	73.3	86.7	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=36)	58.3	61.1	55.6	83.3	66.7	52.8	11.1	2.8	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=24)	50.0	54.2	54.2	41.7	50.0	50.0	4.2	8.3	0.0
	知的障害者	乳幼児期	(n=47)	87.2	85.1	72.3	68.1	72.3	76.6	14.9	0.0	0.0
		学齢期	(n=179)	76.5	75.4	72.6	68.7	65.4	64.8	10.1	0.6	0.6
		中学校卒業後～17歳	(n=167)	74.9	58.1	58.1	67.7	63.5	61.1	8.4	2.4	0.6
	精神障害者	乳幼児期	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=18)	61.1	61.1	77.8	61.1	44.4	61.1	27.8	5.6	5.6
	難病患者	中学校卒業後～17歳	(n=21)	76.2	81.0	71.4	71.4	71.4	81.0	19.0	4.8	0.0
		乳幼児期	(n=11)	54.5	72.7	72.7	72.7	63.6	54.5	0.0	0.0	9.1
		学齢期	(n=22)	50.0	50.0	22.7	31.8	50.0	54.5	0.0	4.5	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=18)	44.4	55.6	55.6	77.8	61.1	50.0	16.7	11.1	0.0

(4) 防災

・災害時に困ること・不安なことは、身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」、知的障害者、精神障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」が最も多い。難病患者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」と「医療を受けられるか分からない」が最も多い。

◎災害時に困ること・不安なこと（問15：複数回答）

【全体】

・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」（63.8%）が最も多く、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」（52.8%）、「お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安」（43.9%）、「避難所まで避難できるか心配」（35.7%）が続いている。

【障害の種類別】

・身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」（46.1%）、知的障害者、精神障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」（知的70.8%、精神71.8%）が最も多い。難病患者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」と「医療を受けられるか分からない」（それぞれ41.5%）が最も多い。

・2番目に多いのは、身体障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」（42.1%）、知的障害者、精神障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない（知的61.2%、精神53.8%）」である。難病患者は「災害や避難に関する情報が得られるか心配」（26.4%）となっている。

図表37 災害時に困ること・不安なこと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)							
		合計	避難所まで避難できるか心配	市の緊急速報メールを受信できるか分からない	お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安	避難を支援してくれる人がいない	災害や避難に関する情報が得られるか心配	障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない	大勢の人の中での避難所生活に不安がある
全体		(N=585)	35.7	9.7	43.9	21.4	21.9	52.8	63.8
障害種別	身体障害者	(n=76)	34.2	5.3	38.2	14.5	17.1	46.1	42.1
	知的障害者	(n=394)	41.6	11.7	49.5	26.9	22.6	61.2	70.8
	精神障害者	(n=39)	23.1	7.7	48.7	7.7	17.9	53.8	71.8
	難病患者	(n=53)	13.2	3.8	18.9	5.7	26.4	17.0	41.5

		合計	医療を受けられるか分からない	呼吸器等に使用する非常用電源を利用できるか分からない	障害等のある人向けの防災マニュアル、防災マップがない	避難場所が分からない	その他	無回答
全体		(N=585)	27.0	6.3	20.5	7.9	8.9	6.0
障害種別	身体障害者	(n=76)	42.1	17.1	22.4	1.3	13.2	7.9
	知的障害者	(n=394)	22.1	6.1	23.4	9.4	6.9	4.8
	精神障害者	(n=39)	23.1	0.0	10.3	2.6	7.7	10.3
	難病患者	(n=53)	41.5	0.0	7.5	9.4	13.2	5.7

(5) 医療・医療的ケア

- ・医療・医療的ケアを「必要としている」は、身体障害者で4割台、知的障害者で2割台、精神障害者で1割台、難病患者で4割台である。
- ・受けている医療・医療的ケアは、身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は、「服薬管理」が最も多い。
- ・医療・医療的ケアを実施するにあたっての困りごとは、「成人後に受診できる医療機関があるか不安」が最も多く、「通院などの移動がたいへん」、「緊急時・急変時の対応が難しい」、「家族への支援が少ない」が続いている。

◎現在必要としている医療的ケア（問18）

【全体】

- ・「必要としている」は25.5%である。

【障害の種類別】

- ・「必要としている」は、身体障害者で42.1%、知的障害者で22.6%、精神障害者で17.9%、難病患者で35.8%である。

図表38 現在何らかの医療的ケアを必要としているか（全体、障害の種類別）

			(%)		
			必要とし ている	必要とし ていない	無回答
	全体	(N=585)	25.5	73.2	1.4
障害種別	身体障害者	(n=76)	42.1	57.9	0.0
	知的障害者	(n=394)	22.6	76.4	1.0
	精神障害者	(n=39)	17.9	74.4	7.7
	難病患者	(n=53)	35.8	62.3	1.9

◎受けている医療・医療的ケア（問18-1：複数回答）

【全体】

- ・「服薬管理」（77.9%）が最も多く、「経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む）」（18.8%）、「痰などの吸引」（15.4%）、「ネブライザー」（10.7%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・全障害で「服薬管理」（身体59.4%、知的85.4%、精神100.0%、難病68.4%）が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「酸素吸入」、「痰などの吸引」、「経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む）」（それぞれ25.0%）、知的障害者は「経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む）」（20.2%）、難病患者は「その他」（21.1%）である。

図表39 現在受けている医療・医療的ケア（全体、障害の種類別：複数回答）

<医療・医療的ケアを必要としている人>

		（%）							
		人工呼吸器管理	気管内挿管、気管切開	酸素吸入	経鼻咽頭エアウェイ管理	痰などの吸引	ネブライザー	中心静脈栄養	
	全体	(n=149)	10.1	10.7	12.8	1.3	15.4	10.7	0.0
障害種別	身体障害者	(n=32)	21.9	21.9	25.0	3.1	25.0	15.6	0.0
	知的障害者	(n=89)	9.0	10.1	10.1	1.1	16.9	12.4	0.0
	精神障害者	(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病患者	(n=19)	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0

		経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む）	継続する透析（腹膜灌流を含む）	定期導尿	人工肛門	服薬管理	その他	無回答	
	全体	(n=149)	18.8	0.0	3.4	2.0	77.9	16.1	0.0
障害種別	身体障害者	(n=32)	25.0	0.0	12.5	6.3	59.4	18.8	0.0
	知的障害者	(n=89)	20.2	0.0	1.1	1.1	85.4	13.5	0.0
	精神障害者	(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	難病患者	(n=19)	10.5	0.0	0.0	0.0	68.4	21.1	0.0

◎医療・医療的ケアを実施するにあたっての困りごと（問18-2：複数回答）

【全体】

- ・「成人後に受診できる医療機関があるか不安」（37.6%）が最も多く、「通院などの移動がたいへん」（34.2%）、「緊急時・急変時の対応が難しい」（26.2%）、「家族への支援が少ない」（19.5%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「緊急時・急変時の対応が難しい」（43.8%）が、知的障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」（43.8%）、精神障害者は「通院などの移動がたいへん」、「その他」（それぞれ42.9%）が、難病患者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」（21.1%）が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「通院などの移動がたいへん」（37.5%）、知的障害者は「通院などの移動がたいへん」（38.7%）、精神障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」（28.6%）、難病患者は「医療的ケアの費用負担が大きい」と「その他」（それぞれ15.8%）となっている。

図表40 医療・医療的ケアの困りごと（全体、障害の種類別：複数回答）

<医療・医療的ケアを必要としている人>

		（%）								
		在宅での医療的ケアがたいへん	通院などの移動がたいへん	長時間の介助がたいへん	休日・夜の間の介助がたいへん	医療的ケアの費用負担が大きい	就労・通所先の受け入れが難しい	緊急時・急変時の対応が難しい	身近に対応可能な医療機関がない	
	全体	(n=149)	12.8	34.2	12.8	17.4	12.1	10.1	26.2	4.7
障害種別	身体障害者	(n=32)	15.6	37.5	12.5	31.3	18.8	21.9	43.8	3.1
	知的障害者	(n=89)	13.5	38.2	16.9	16.9	10.1	9.0	24.7	3.4
	精神障害者	(n=7)	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6
	難病患者	(n=19)	5.3	5.3	0.0	0.0	15.8	0.0	5.3	5.3

		訪問看護ステーションがない	困った時の相談先が分からない	医療的ケアに関する情報が少ない	家族への支援が少ない	成人後に受診できる医療機関がある	その他	無回答	
	全体	(n=149)	0.0	9.4	5.4	19.5	37.6	14.1	18.8
障害種別	身体障害者	(n=32)	0.0	9.4	12.5	25.0	34.4	12.5	9.4
	知的障害者	(n=89)	0.0	10.1	4.5	20.2	43.8	11.2	19.1
	精神障害者	(n=7)	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6	42.9	0.0
	難病患者	(n=19)	0.0	5.3	0.0	5.3	21.1	15.8	42.1

(6) 地域・共生社会

- ・共生社会（ノーマライゼーション）の理解についてたずねたところ、「いいえ」が8割を超えている。
- ・どのようなことがあればお子さんが理解されていると思うかたずねたところ、「お子さんのことを理解して受け入れができること」が最も多く、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと」、「お子さんを特別な目で見ないこと」が続いている。
- ・必要とする合理的配慮については、「お子さんや主たる養育者の方が困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」が最も多く、「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」、「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」が続いている。

◎共生社会（ノーマライゼーション）の理解（問19）

【全体】

- ・「はい」23.2%、「いいえ」74.4%である。

【障害の種類別】

- ・「いいえ」は、身体障害者は61.8%、知的障害者は78.4%、精神障害者は92.3%、難病患者は58.5%である。

図表4-1 市民の「共生社会（ノーマライゼーション）」の理解（全体、障害の種類別）

		(%)		
		はい	いいえ	無回答
	全体 (N=585)	23.2	74.4	2.4
障害種別	身体障害者 (n=76)	35.5	61.8	2.6
	知的障害者 (n=394)	20.3	78.4	1.3
	精神障害者 (n=39)	2.6	92.3	5.1
	難病患者 (n=53)	35.8	58.5	5.7

◎どのようなことがあればお子さんが理解されていると思うか（問19-1：複数回答）

【全体】

- ・「いいえ」と回答した人に、どのようなことがあればお子さんが理解されていると思うかたずねたところ、「お子さんのことを理解して受け入れができること」（56.8%）が最も多く、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと」（39.8%）、「お子さんを特別な目で見ないこと」（38.2%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「お子さんのことを理解して受け入れができること」（身体61.7%、知的55.7%、精神66.7%、難病51.6%）が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者はお子さんを特別な目で見ないこと（40.4%）、知的障害者と精神障害者は「お子さんが大きな声を出したり動きまわっても、嫌な顔をされないこと」（知的45.6%、精神41.7%）、難病患者は「お子さんを特別な目で見ないこと」（32.3%）となっている。

図表42 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか（全体、障害の種類別：複数回答）
 <共生社会（ノーマライゼーション）が理解されていないと答えた人>

		(%)									
		お子さんを特別な目で見ないこと	お子さんのことを理解して受け入れができること	お子さんがやりたいことへの手助けがあること	お子さんへの思いやりのある声かけがあること	お子さんが話すことを無視せず、話を聞くこと	トイレや駅などを利用しやすくすること	盲導犬などの補助犬や車いすでの入店ができること	お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと	その他	無回答
	全体 (n=435)	38.2	56.8	28.7	25.5	15.9	17.0	3.9	39.8	12.2	1.1
障害種別	身体障害者 (n=47)	40.4	61.7	34.0	27.7	10.6	23.4	10.6	10.6	14.9	2.1
	知的障害者 (n=309)	38.5	55.7	27.5	26.9	17.2	18.1	2.9	45.6	10.0	1.3
	精神障害者 (n=36)	33.3	66.7	30.6	33.3	11.1	0.0	0.0	41.7	27.8	0.0
	難病患者 (n=31)	32.3	51.6	29.0	9.7	12.9	16.1	6.5	19.4	16.1	0.0

◎必要とする合理的配慮（問20）

【全体】

- ・「お子さんや主たる養育者の方が困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（52.6%）が最も多く、「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」（51.6%）、「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」（49.7%）、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」（47.4%）、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」（45.3%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「お子さんや主たる養育者の方が困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（53.9%）が最も多い。
- ・知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」（57.1%）が最も多い。
- ・精神障害者は「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」（69.2%）が最も多い。
- ・難病患者は、「お子さんや主たる養育者の方が困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（45.3%）が最も多い。

図表4 3 必要とする合理的配慮（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)									
		お子さん や主たる 養育者の 方が、 困ってい ると思わ れるとき は、声を かけ、手 伝いの必 要性を確 かめてか ら対応す る	お子さん の歩行速 度に合わ せて案内 したり、 位置取り について 、お子 さんの希 望を聞く	車いすな どを利用 している お子さん が利用し やすいよ う機の高 さなどに 配慮する	移動を手 伝う（段 差がある 場合やエ レベーター がない場 合の上下 移動の補 助など）	障害や疾 病等の特 性に応じ て、教室 や会場の 座席の位 置を決め る	音や肌触 り、室温 など感覚 面の環境 調整を行 う	お子さん の疲労や 緊張など に配慮し 別室や休 憩スペース を設ける	物の位置 を分かり やすく伝 える	収納を手 伝う（手 の届きに くいところ にあるもの をとる、しま うなど）	
	全体	(N=585)	52.6	22.2	22.7	27.0	38.6	23.9	49.7	26.2	16.1
障害種別	身体障害者	(n=76)	53.9	25.0	31.6	40.8	39.5	10.5	34.2	10.5	17.1
	知的障害者	(n=394)	54.1	22.1	23.1	26.9	39.8	26.1	55.1	31.5	17.8
	精神障害者	(n=39)	48.7	25.6	20.5	20.5	53.8	41.0	64.1	28.2	12.8
	難病患者	(n=53)	45.3	18.9	17.0	20.8	30.2	17.0	32.1	17.0	7.5
			障害等の 特性に応 じたコ ミュニ ケーション 手段を用 いる	ゆっくり と短いこ とばや文 章で、わ かりやす く話しか ける	漢字を少 なくす る、ルビ を振るな どの配慮 をする	伝える情 報を紙に 書くなど して整理 し、参加 するため の工夫を する	その他	分からな い	無回答		
	全体	(N=585)	51.6	47.4	24.1	35.2	45.3	7.7	3.9	3.2	
障害種別	身体障害者	(n=76)	42.1	22.4	11.8	14.5	48.7	13.2	3.9	5.3	
	知的障害者	(n=394)	56.6	57.1	28.4	40.1	44.7	6.3	3.3	1.8	
	精神障害者	(n=39)	69.2	43.6	30.8	51.3	56.4	10.3	5.1	7.7	
	難病患者	(n=53)	28.3	24.5	15.1	26.4	41.5	5.7	7.5	5.7	

(7) 施策

- ・充実を望む施策は、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が最も多く、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」、「利用できる通所施設を整備すること」、「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」が続いている。

◎充実を望む施策（問23：複数回答）

【全体】

- ・「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（39.8%）が最も多く、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」（39.7%）、「利用できる通所施設を整備すること」（28.0%）、「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」（27.4%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」（30.3%）が最も多い。
- ・知的障害者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（47.2%）が最も多い。
- ・精神障害者、難病患者は、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」（精神43.6%、難病30.2%）が最も多い。

【障害の種類×年代別】

- ・身体障害者では、乳幼児期は「各種相談事業を充実すること」（46.7%）、学齢期は「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」（33.3%）、中学校卒業後～17歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（33.3%）が最も多い。
- ・知的障害者では、乳幼児期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」（59.6%）、学齢期と中学校卒業後～17歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（学齢期54.2%、中学校卒業後41.9%）が最も多い。
- ・精神障害者では、学齢期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」（50.0%）が最も多い。
- ・難病患者では、乳幼児期は「各種相談事業を充実すること」（36.4%）、学齢期は「各種相談事業を充実すること」と「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」（それぞれ40.9%）、中学校卒業後～17歳は「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」（38.9%）が最も多い。

図表4 4 充実を望む施策（全体、障害の種類別、障害の種類×年代別：複数回答）

		(%)										
		各種相談事業を充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること	権利擁護事業や成年後見制度の取り組みを図ること	障害等のある人の確保や就労の定着を図ること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	グループホームを充実すること		
	全体	(N=585)	27.0	11.5	12.1	39.8	8.0	28.0	9.4	14.9	25.8	
障害種別	身体障害者	(n=76)	23.7	11.8	2.6	28.9	10.5	13.2	30.3	14.5	7.9	
	知的障害者	(n=394)	25.9	13.7	15.7	47.2	7.9	34.5	7.4	17.0	34.5	
	精神障害者	(n=39)	33.3	2.6	5.1	38.5	2.6	25.6	0.0	7.7	17.9	
	難病患者	(n=53)	28.3	3.8	5.7	13.2	9.4	13.2	3.8	5.7	1.9	

		(%)										
		視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	ライフステージに合わせた、切れない支援をすること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんに対する暴力や差別をなくすること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんに対する適切な医療体制を充実すること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんに対する適切な短期入所を充実すること	子どもの意見表明を支援する事業を充実すること	精神状態の不安定に対する支援を充実すること	その他		
	全体	(N=585)	2.4	39.7	24.8	14.4	27.4	14.7	4.3	7.0	5.3	
障害種別	身体障害者	(n=76)	11.8	26.3	23.7	11.8	17.1	5.3	2.6	2.6	0.0	
	知的障害者	(n=394)	1.0	43.7	24.4	13.7	29.7	19.5	3.6	6.3	5.6	
	精神障害者	(n=39)	0.0	43.6	30.8	20.5	28.2	5.1	7.7	25.6	15.4	
	難病患者	(n=53)	0.0	30.2	24.5	15.1	28.3	5.7	9.4	3.8	5.7	

障害の種類×年代別

		(%)											
		各種相談事業を充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること	権利擁護事業や成年後見制度の取り組みを図ること	障害等のある人の確保や就労の定着を図ること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	グループホームを充実すること	視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること		
	全体	(N=585)	27.0	11.5	12.1	39.8	8.0	28.0	9.4	14.9	25.8	2.4	
障害種別・年代別	身体障害者	乳幼児期	(n=15)	46.7	20.0	0.0	26.7	6.7	13.3	26.7	13.3	6.7	6.7
		学齢期	(n=36)	19.4	5.6	0.0	25.0	11.1	11.1	33.3	16.7	2.8	13.9
	知的障害者	中学校卒業後～17歳	(n=24)	16.7	16.7	8.3	33.3	12.5	16.7	29.2	12.5	16.7	12.5
		乳幼児期	(n=47)	29.8	21.3	6.4	38.3	6.4	42.6	8.5	8.5	25.5	4.3
	精神障害者	学齢期	(n=179)	27.9	12.8	17.9	54.2	10.6	40.2	7.8	21.2	37.4	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=167)	22.8	12.0	16.2	41.9	5.4	25.7	6.6	15.0	34.1	1.2
	難病患者	乳幼児期	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=18)	38.9	0.0	0.0	33.3	0.0	38.9	0.0	5.6	16.7	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	28.6	4.8	9.5	42.9	4.8	14.3	0.0	9.5	19.0	0.0
	難病患者	乳幼児期	(n=11)	36.4	0.0	9.1	0.0	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0
		学齢期	(n=22)	40.9	4.5	4.5	18.2	9.1	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=18)	11.1	5.6	5.6	16.7	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0

		(%)										
		ライフステージに合わせた、切れない支援をすること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんに対する暴力や差別をなくすること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんに対する適切な医療体制を充実すること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんに対する適切な短期入所を充実すること	子どもの意見表明を支援する事業を充実すること	精神状態の不安定に対する支援を充実すること	その他	分からない		
	全体	(N=585)	39.7	24.8	14.4	27.4	14.7	4.3	7.0	5.3	9.9	
障害種別・年代別	身体障害者	乳幼児期	(n=15)	40.0	40.0	13.3	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0
		学齢期	(n=36)	27.8	22.2	11.1	16.7	2.8	2.8	0.0	0.0	16.7
	知的障害者	中学校卒業後～17歳	(n=24)	16.7	16.7	12.5	12.5	8.3	0.0	4.2	0.0	8.3
		乳幼児期	(n=47)	59.6	25.5	21.3	36.2	23.4	4.3	2.1	8.5	10.6
	精神障害者	学齢期	(n=179)	48.0	26.8	11.7	26.3	22.3	2.8	7.8	5.6	5.0
		中学校卒業後～17歳	(n=167)	34.7	21.6	13.8	31.7	15.6	4.2	6.0	4.8	7.8
	難病患者	乳幼児期	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=18)	50.0	44.4	22.2	38.9	11.1	16.7	33.3	16.7	5.6
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	38.1	19.0	19.0	19.0	0.0	0.0	19.0	14.3	14.3
	難病患者	乳幼児期	(n=11)	27.3	27.3	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	18.2	36.4
		学齢期	(n=22)	40.9	27.3	18.2	22.7	9.1	4.5	4.5	0.0	22.7
		中学校卒業後～17歳	(n=18)	22.2	22.2	22.2	38.9	5.6	16.7	5.6	5.6	38.9

(8) 保護者の状況

- ・養育の負担感やストレスを軽減させるために重要と考えることは、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者とも、「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」（身体43.4%、知的57.4%、精神59.0%、難病32.1%）が最も多い。

◎養育の負担感やストレスを軽減させるために重要と考えること（問37：複数回答）

【全体】

- ・「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」（51.8%）が最も多く、「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」（25.8%）、「日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス」（22.9%）、「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関」（19.1%）、「療育や教育の体制を充実すること」（18.6%）が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者とも、「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」（身体43.4%、知的57.4%、精神59.0%、難病32.1%）が最も多い。

図表45 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)									
		日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス	数日間、お子さんを預かってくれるサービス	お子さんの世話のために十分に手が回らない家事などへのサポート	お子さんを自宅や近所で介助してくれるサービス	育ちや発達に気になるお子さんの兄弟姉妹に対するサポート	育ちや発達に気になるお子さんを持つ養育者同士が交流し、情報交換などを行うこと	主に養育している人自身が趣味、学習、就労など、社会的活動に参加すること	お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること	主に養育している人以外の家族が、もっとお子さんの世話に参加してくれること	
	全体 (N=585)	22.9	13.0	11.6	4.4	8.0	8.4	15.6	51.8	4.4	
障害種別	身体障害者 (n=76)	18.4	10.5	13.2	5.3	5.3	2.6	18.4	43.4	7.9	
	知的障害者 (n=394)	25.9	15.7	10.4	5.1	8.9	9.9	16.8	57.4	5.1	
	精神障害者 (n=39)	15.4	5.1	12.8	2.6	2.6	12.8	5.1	59.0	0.0	
	難病患者 (n=53)	11.3	5.7	11.3	0.0	9.4	3.8	11.3	32.1	0.0	

		合計	お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること	お子さんの障害に対する正しい知識や、向きあい方を学ぶ機会を充実すること	お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関	療育や教育の体制を充実すること	学童クラブなど放課後活動を充実すること	医療機関のサービス（通院、対応等）が充実すること	その他
	全体 (N=585)	25.8	6.5	19.1	18.6	9.6	11.3	3.6	
障害種別	身体障害者 (n=76)	38.2	2.6	17.1	6.6	5.3	11.8	2.6	
	知的障害者 (n=394)	24.9	6.6	18.3	18.8	12.4	9.9	3.0	
	精神障害者 (n=39)	25.6	12.8	28.2	41.0	2.6	12.8	5.1	
	難病患者 (n=53)	17.0	7.5	24.5	18.9	1.9	20.8	7.5	

6 障害者福祉関連団体調査（調査3）

(1) 活動状況

◎活動拠点等（問5）

- ・活動拠点が決まっている団体は3団体で、ルミエール府中、生涯学習センター、市民活動センタープラッツなどを挙げている。経費の収入源については、「会員からの会費」や「市からの補助金」、「市以外からの補助金」「寄付金」が多い。

◎担い手（問6）

- ・担い手について、4件が「担い手が不足し、活動に支障が出ている」と回答しているが、今後は「積極的に増やしていきたい」「増やしていきたい」との回答が多くなっている。

◎活動する上で困っていること（問7）

- ・活動する困りごとは、「会員の意識」「運営方法」「活動場所の確保」が上位となっている。

◎これからやってみたいこと（問8）

- ・これからやってみたいこととして、5団体が「障害に関するさまざまな情報の提供」、「当事者や家族などが気軽に交流できる機会の提供」を、3団体が「当事者とボランティアとのコーディネート機能の強化」「施策の検討への関与」を挙げている。

(2) 相談支援体制

◎市の相談体制に望むこと（問9）

- ・市の相談には5団体が「情報提供」、「当事者相談」、「専門相談員」の充実が必要としている。

(3) 災害時の支援（問12）

◎災害時に障害等のある人々が安心して過ごせるための支援として必要なこと

- ・震災時に必要な支援として4団体が「在宅サービス利用者への安否確認」、「障害のある人の一時的な受け入れ」を挙げているが、いずれも幅広く支援が必要との回答が多くなっている。

(4) 地域共生社会づくりに向けた協力意向

◎地域共生社会の実現に向けて、団体として協力できること（問14）

- ・地域共生社会の実現に向けて実施できることとしては、3団体が「地域の集まりやイベントへの参加」、「ボランティアの受け入れ」、「災害時の物資提供や避難所の支援」を挙げている。

(5) 障害福祉施策についての意見

◎障害福祉施策（問17）

- ・「障害理解・意識啓発」、「障害者福祉団体の活動支援や協働」、「障害福祉サービス事業所への支援や協働」、「生涯学習・文化芸術活動・スポーツの機会」、「就労への支援」「地域生活支援、住まい等の充実」、「安心して生活できる環境づくり」、「災害時の支援体制や避難所」、「インクルーシブ教育」に対して意見が挙げられている。

7 障害福祉サービス事業所調査（調査4）

（1）事業所の概要

◎組織形態（問1）

- ・事業所の組織形態は、「社会福祉法人」が 31.8%（前回：26.9%）、「株式会社」が 27.3%（前回：31.2%）、「NPO」が 18.2%（前回：20.4%）となっている。

（2）今後の事業運営

◎昨年度の事業の採算（問4）

- ・昨年度の事業採算では、「黒字」が 34.5%（前回：29.9%）、「赤字」が 35.5%（前回：40.7%）、「損益はない」が 20.0%（前回：18.9%）となっている。

◎事業運営上の不安（問5：複数回答）

- ・「人材の確保・育成」が 84.5%（前回：85.5%）、「サービスに見合う収益が見込めるか」が 60.7%（前回：62.9%）、「十分な利用者が見込めるか」が 42.7%（前回：17.7%）となっている。

◎サービス実施の点で難しい問題（問6：複数回答）

- ・「育成・定着が難しい」が 66.4%、「報酬が低く、実態とみあわない」が 57.3%となっている。

（3）人材の確保・育成・定着支援等の課題

◎人材の確保・育成・定着支援の課題（問9：複数回答）

- ・「採用募集をかけても応募がない」が 59.1%で最も多く、「採用への応募はあるが条件を満たしていない場合が多い」（40.9%）、「採用に向けた経営経費・活動資金が不足している」（36.4%）が続いている。

◎人材の確保・採用の取組（問10：複数回答）

- ・「民間の求人サイトに広告を出している」が 62.7%、「ハローワークを活用している」が 61.8%、「法人や事業所のホームページから求人している」が 57.3%となっている。

（4）地域共生社会づくりに向けた協力意向

◎地域共生社会の実現に向けて実施できること（問19：複数回答）

- ・地域共生社会の実現に向けて実施できることとしては、「地域の集まりやイベントへの参加」（66.4%）が最も多く、「施設への招待、施設見学の受け入れ」（45.5%）、「ボランティアの受け入れ」（39.1%）が続いている。
- ・災害時に協力できることとしては、「在宅サービス利用者への安否確認」が 58.2%（前回：57.2%）で最も多く、「在宅の災害時要援護者の避難支援への協力」が 28.2%（前回：22.4%）、「施設を福祉避難所として活用することへの協力」が 20.0%（前回：20.9%）となっている。

(5) 市への要望

◎障害福祉サービスの充実に向けて必要なこと（問29：複数回答）

「人材確保のための取り組み」（61.8％）（前回：70.0％）が最も多く、「緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備」（50.0％）（前回：70.8％）、「障害のある人とその家族が安心して暮らせるための相談体制」（45.5％）（前回：46.9％）が続いている。